

食品安全情報（化学物質） No. 2/ 2023（2023. 1. 18）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部
(<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>)

<注目記事>

【EC】 グリホサート：認可期間の延長について

植物保護製品（農薬）の有効成分グリホサートの認可は2022年12月15日に失効する予定であったが、その更新の可否について欧州委員会（EC）は合意できなかった。そのためECは関連規則に基づき、2022年12月2日、グリホサートの認可を2023年12月15日まで延長するという委員会実施規則(EU) 2022/2364を採択した。

*ポイント：植物保護製品に関する規則(EC)No1107/2009では、申請者が対処できない理由により、有効成分の認可の更新について決定が下される前に失効する可能性が高い場合には、認可期間を延長するよう定めています。今回のグリホサートについては、科学的根拠となる欧州食品安全機関（EFSA）の評価にかなりの時間を要しており、完了するのが2023年7月以降になると予測されたため、規則に基づき期限延長となりました。

【NIH】 スクープ-2022年12月（亜鉛について）

米国国立衛生研究所（NIH）のダイエタリーサプリメント局（ODS）は、ダイエタリーサプリメントの摂取に関するさまざまな疑問に答えるための簡単なQ&Aを定期刊行している。今号のテーマは「亜鉛」について。

【別添TGA】 ビタミンB6を含む健康サプリメントが末梢神経障害を引き起こす可能性がある

ビタミンB6（ピリドキシン）の摂取は、副作用として末梢神経障害を引き起こす可能性がある。その副作用はすで知られていることだが、オーストラリアTGAの報告書によると、多くの人があることを知らず、マルチビタミンやサプリメントにビタミンB6が含まれていることも気づいていないことが示唆されている。複数のサプリメントを摂るとビタミンB6の総摂取量が多くなり、末梢神経障害を発症する可能性が高くなる。TGAには、ビタミンB6を含む製品との関連が疑われる末梢神経障害の報告が30件以上届いている。そのため、ビタミンB6の摂取について注意を喚起するとともに、製品ラベルへの警告表示に関する規則を改訂した。

*ポイント：上記2つの記事はビタミンとミネラルのサプリメントの摂取に関するものです。不足していると思ってサプリメントを摂取している方も多いかもしれませんが、ヒトの生理機能に不可欠であっても過剰摂取による有害影響を生じる可能性もあります。ビタミンB6に関するTGAの記事は、その点を丁寧にわかりやすく説明しています。

日本人の栄養素の摂取については「日本人の食事摂取基準（2020年版）」に推定平均必要量、推奨量、耐受上限量などが示されています。各栄養素をどの程度摂取するのが良いのか気になる方は参考にして下さい。

*日本人の食事摂取基準

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/eiyuu/syokujijiyun.html

目次（各機関名のリンク先は本文中の当該記事です）

[【FAO】](#)

1. 遺伝子編集とアグリフードシステム
2. セルビアの伝統を維持しつつ食品安全を近代化する
3. Codex

[【EC】](#)

1. グリホサート：認可期間の延長について
2. SCHEER（環境及び新興リスクに関する科学委員会）
3. SCCS（消費者安全に関する科学委員会）
4. 査察報告書
5. 食品及び飼料に関する緊急警告システム（RASFF）

[【EFSA】](#)

1. 2022 危機準備訓練：年次報告書
2. EFSA は新しいロゴで新年を迎えます！
3. 新規食品関連
4. 食品接触物質関連
5. 農薬関連
6. 飼料添加物関連

[【FSA】](#)

1. 少数のヒト母乳製品のリコールに関する通知
2. FSA は共有キッチンでの学生の食品安全行動に関する研究を共有する

[【DEFRA】](#)

1. グレートブリテン植物バイオセキュリティ戦略(2023年から2028年)
2. イングランドにおける使い捨てプラスチックの広範囲に及ぶ禁止

[【DWI】](#)

1. 研究報告「飲料水のための水の再利用についての人々の認識」の発表
2. 水質規制基準レビュー

[【BfR】](#)

1. 肥育動物における抗生物質の使用は減少傾向
2. あなたの食品に何が入っているか—BfR MEAL Study
3. ニッケル：BfR MEAL Studyに基づく食品を介した長期摂取量の推定

[【RIVM】](#)

1. DIY 製品ファクトシート。消費者暴露を推定するためのデフォルトパラメーター—2022 更新バージョン

[【ANSES】](#)

1. トコジラミを全滅させる最終手段としてのみ化学物質を使用すること

[【FDA】](#)

1. ジュース中のヒ素及び鉛の検査結果
2. FDA は Food Code の 2022 版を発表
3. FDA の警察長官：グローバル化と e コマースの課題への適応
4. FDA は食品表示最終規則の統一遵守日を発表
5. FDA は乳児用調製乳移行計画に関する承認書を発行
6. シーフードの天然毒素とスコンブroid魚中毒に関連する病気とアウトブレイクの調査表更新
7. FDA と Stop Foodborne Illness が食品安全文化の学習とトレーニングのウェビナーを共同開催する
8. FDA はヒト及び動物用食品の輸入業者向けの外国供給業者検証プログラム最終ガイドラインを発行する

9. 警告文書

【EPA】

1. EPA はプラスチックや化学物質製造に使用される PFAS の全国検査戦略下で次の検査命令を発行
2. EPA は新しい PFAS 解析ツールを発表

【NIH】

1. スクープ-2022年12月（亜鉛について）

【CFIA】

1. 乳児用シリアルでのオキシニバレノール—2018年4月1日～2019年3月31日
2. 特定食品中のオクラトキシン A—2012年4月1日～2018年3月31日及び2019年4月1日～2022年3月31日

【FSANZ】

1. 食品基準通知

【NSW】

1. FAQ : Broken Bay の有毒な藻の発生について
2. 2022 夏の Foodwise ニュースレター

【香港政府ニュース】

1. Food Safety Focus-スコンブroid 魚中毒症
2. イタリア保健当局の報告: 基準値超過のオクラトキシンのため、CAFFE' TROMBETTA SpA のコーヒー製品のイタリアでのリコールに関する通知
3. 違反情報

【MFDS】

1. 日本産輸入食品の放射能検査の結果
2. 蜂蜜製品に液状果糖を混入して製造・販売した業者を摘発
3. 飼養蜂蜜を天然蜂蜜と虚偽表示・販売した行為など集中取締りの結果、7 業者を摘発・措置
4. コエンザイム Q10 など機能性原料 9 種「摂取時の注意事項」を追加
5. 中国産乾燥キクラゲに対する輸入業者の検査命令の施行
6. 食薬処、代替食品の定義と安全管理の基準を用意
7. 個人オーダーメイド型、複合健康機能性食品のモデル事業が拡大

【SFA】

1. シンガポールの農家との強い関係構築
2. マレーシア産ロメインレタスの輸入規制
3. 新規食品

【その他】

- ・ 食品安全関係情報（食品安全委員会）から
- ・ ProMED-mail 3 件

別添

【TGA】ビタミン B6 を含む健康サプリメントが末梢神経障害を引き起こす可能性がある

-
- 国連食糧農業機関 (FAO : Food and Agriculture Organization of the United Nations)
<https://www.fao.org/home/en>

1. ゲノム編集とアグリフードシステム

Gene editing and agrifood systems

Rome. 2022.

<https://doi.org/10.4060/cc3579en>

ゲノム編集技術は、低中所得国における動植物育種の有望な新しいツールである。それらは現在の育種方法よりも精度と効率を高め、改良した植物品種と動物品種の急速な開発につながる可能性がある。しかし、どんな新しい技術にもメリットとデメリットがある。ゲノム編集した生物を規制するべきか、またどのように規制するべきか、またそれらの放出が「生物の多様性に関する条約のバイオセーフティに関するカルタヘナ議定書」の規制の枠組みに該当するかどうかについては、まだ国際的な同意が得られていない。ゲノム編集とアグリフードシステムに関する科学的及びエビデンスに基づく本誌は、ヒトの飢餓、ヒトの健康、食品安全、環境への影響、動物福祉、社会経済的影響、利益の分配など、ゲノム編集の最も適切な側面についてバランスの取れた議論を提示する。本質的な倫理的懸念とガバナンス及び規則の問題を取り上げ、公共と民間部門の単独及びパートナーシップにおける役割をまとめている。アグリフードシステムの変革を支援するために、ゲノム編集を将来どのように使用するかについても、様々なシナリオを提示する。

* Gene editing and agrifood systems

<https://www.fao.org/3/cc3579en/cc3579en.pdf>

2. セルビアの伝統を維持しつつ食品安全を近代化する

Modernizing food safety while preserving traditions in Serbia

10/01/2023

<https://www.fao.org/fao-stories/article/en/c/1627942/>

小規模伝統食品生産者に新たな食品安全規制を理解し実践してもらうための取り組み。今回の FAO と欧州復興開発銀行 (EBRD) が支援する食品の安全性対策は、小規模な家族経営事業者向けに基本的でカスタマイズされた対策で、安全性と衛生基準を確実に満たしながら、高品質の食品、文化遺産、小規模生産者の生計の多様性の維持を可能にする。この FAO と EBRD の協力により、セルビアの生産者が新しい食品安全の規則を理解して遵守するのに役立つ、一連のガイドラインと宣伝用の資料作成を促し、指導ビデオを含むトレーニングプログラムが開発された。また、EU の基準と完全に一致していることを確認することで、セルビアの EU への加入の可能性が促進されることでもセルビアにとって重要である。

3. Codex

- コーデックス食品衛生部会 **Emilio Esteban** 議長が米国の新しい食品安全担当農務次官に就任

CCFH Chairperson Emilio Esteban is new USA Under Secretary of Agriculture for Food Safety

13/01/2023

<https://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/news-and-events/news-details/en/c/1628563/>

コーデックス食品衛生部会（CCFH）議長の Jose Emilio Esteban 氏が、米国の新しい食品安全担当農務次官に就任することが決定した。Emilio Esteban 氏は、2008 年の第 40 回 CCFH から議長を務めている。Tom Heilandt 事務局長は、「食品安全に関する国際協力と合意形成への彼の取り組みは卓越しており、コーデックスへの彼の貢献は食品衛生分野の仕事をはるかに超えている。彼が次官として並外れた仕事をすることを確信し、新しい職務が許す限り、コーデックスに積極的に参加してくれることを期待している」と祝辞を述べた。コーデックス議長の Steve Wearne 氏（英国）もまた、CCFH での長年の議長職を含むコーデックスにおける彼の全ての活動に感謝の意を述べた。

- **Emilio Esteban / 新たな視点、しかし同じ価値**

Emilio Esteban / a new perspective, but the same values

15/01/2023

<https://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/news-and-events/news-details/en/c/1628602/>

コーデックス食品衛生部会（CCFH）議長である Emilio Esteban 氏が、米国農務省食品安全担当の新次官として承認された後、コーデックス事務局に送ったメッセージ：

「コーデックスに在籍している間、私は非常に幸運なことに、共通の目標を持った素晴らしい頭脳と優しい心を持った人々と共に働くことができた。彼らは科学の価値を理解し、世界中の家庭に存在する現実とのバランスを取ろうとする専門家たちである。この就任によって、私は地域社会へ戻り、安全な食品と公正な取引という我々の中心となる価値を説明するための、異なるレベルのプラットフォームを得ることになる。食品は、国境と地域社会の境界を越える必然的な力で、我々すべてを結びつけている。この新しい役割は、私に新しい視点を与えてくれるが、私がこれまでと同じ価値観を持った人間であることに変わりはない。より大きな貢献をし、可能であれば、その過程で他の人々を助けることができる機会と考えている。」

-
- 欧州委員会（EC : Food Safety: from the Farm to the Fork）

https://ec.europa.eu/food/safety_en

1. グリホサート：認可期間の延長について

Glyphosate

https://food.ec.europa.eu/plants/pesticides/approval-active-substances/renewal-approval/glyphosate_en#:~:text=The%20Appeal%20Committee%20also%20did,glyphosate%20until%2015%20December%202023

2022年10月14日に開催された植物、動物、食品及び飼料に関する常任委員会の会議で、加盟国は、規則（EC）No1107/2009の第17条に基づき、現行の認可を1年間延長することを提案する欧州委員会の実施規則案について投票を行った。加盟国の明確な過半数がこの提案を支持したものの、適格数には達せず、合意に達しなかった。欧州委員会は、同規則案をさらなる審議のために審査委員会（Appeal Committee）に付託し、同委員会は2022年11月15日に召集された。この審査委員会もまた、意見を述べなかった。

規則（EC）No1107/2009の第17条に定められた法的義務に従い、欧州委員会は2022年12月2日に委員会実施規則（EU）2022/2364（以下参照）を採択し、グリホサートの認可を2023年12月15日まで延長した。

認可の延長は、進行中のピアレビュー過程の遅延のため必要であった。欧州食品安全機関（EFSA）の現在の計画では、ピアレビューに関する結論は2023年7月に得られる予定である。したがって、認可基準が規則（EC）No1107/2009の第4条に基づくグリホサートの認可基準を満たすと予想されるかどうかに関する評価はまだ継続中であるため、更新手続きは現行の有効期限である2022年12月15日までに完了することはできなかった。

この延長は、グリホサートの認可を更新できるか否かの決定に影響を与えるものではなく、更新の可否は科学的評価が完了した時点で初めて決定される。

- COMMISSION IMPLEMENTING REGULATION (EU) 2022/2364 of 2 December 2022 amending Implementing Regulation (EU) No 540/2011 as regards the extension of the approval period of the active substance glyphosate

https://eur-lex.europa.eu/eli/reg_impl/2022/2364/oj

（要約）

- 欧州委員会実施規則（EU）No540/2011の附属書のパートBには、規則（EC）No1107/2009に基づいて認可された有効成分が記載されている。このリスト上の有効成分グリホサートの認可は2022年12月15日に失効する。
- 2019年12月12日に欧州委員会実施規則（EU）No 844/2012の第1条に基づき、グリホサートの認可更新の申請が提出された。
- 欧州委員会実施規則（EU）2019/724によって結成されたグリホサートに関する評価作業部会（以下、「AGG : Assessment Group on Glyphosate」）は、2020年8月18日、グリホサートの認可更新手続きに関する可否を検討し、2021年6月15日に最初の更新評価報告書（RAR）案を欧州食品安全機関（EFSA）に提出した。

- この RAR 案に関するパブリックコメントで非常に多くの意見が EFSA に提出されたこと、EFSA が申請者に相当量の追加情報を要求したこと、AGG と EFSA がピアレビューで専門家が議論すべき点を多数同定したことにより、AGG による追加情報の評価と EFSA によるピアレビューには、かなりの時間を要することとなった。
- EFSA によるピアレビューに関する結論の採択は 2023 年 7 月よりも遅れると予測されるため、グリホサートの認可更新に関する決定は、失効日である 2022 年 12 月 15 日以前には行えないことが委員会に報告された。
- 有効成分グリホサートの評価は、申請者がコントロールできない理由で遅れており、認可更新の申請を決定するために必要な評価を完了する時間を確保するために、有効成分の認可期間を延長する必要がある。
- 以上のことから、2022 年 12 月 2 日、欧州委員会実施規則 (EU) No540/2011 の附属書のパート B において、グリホサートの認可の失効期日を「2023 年 12 月 15 日」に差し替えることが決定された。
- 本規則は欧州連合官報における公布の 7 日後から発効する。

* 関連記事

食品安全情報 (化学物質) No. 25/ 2022 (2022. 12. 07)

【EC】グリホサート

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202225c.pdf>

2. SCHEER (環境及び新興リスクに関する科学委員会)

- おもちゃにコバルトが存在することの安全性に関する科学的意見 最終意見

SCHEER - Scientific Opinion on the safety of the presence of cobalt in toys

9 January 2023

https://health.ec.europa.eu/publications/scheer-scientific-opinion-safety-presence-cobalt-toys_en

おもちゃ安全性指令 2009/48/EC では、発がん性、変異原性、生殖毒性と分類される物質 (CMR 物質) のおもちゃへの使用を禁止している。CMR 物質の使用を許可するには、科学委員会による評価で特に暴露の観点から安全だと判断された場合に規則からの逸脱が可能である。例外適用のもう一つの可能性は、代用品が存在しないこと、である。コバルトは発がん性カテゴリー1B、変異原性カテゴリー2、生殖毒性カテゴリー1B に分類され、おもちゃにはニッケルあるいはニッケル合金の不純物として存在し、あるいはコバルト含有色素等で意図的に使われる。SCHEER はおもちゃのコバルトの安全性を評価し、考慮が必要な暴露源を同定した。一部の例外 (例: コバルト含有金属導線) を除き暴露評価のために必要な情報とデータが欠けている。それらについては定量的暴露とリスク評価はできない。

3. SCCS (消費者安全に関する科学委員会)

- ヒドロキシアパタイト (ナノ)

Hydroxyapatite (nano)

11 January 2023

https://health.ec.europa.eu/publications/hydroxyapatite-nano-0_en

パブリックコメント募集 (締め切り 2023 年 3 月 1 日)

提供されたデータに基づき、SCCS は以下の特徴をもつヒドロキシアパタイト(ナノ)を、練り歯磨きに最大 10%、マウスウォッシュに 0.465%までの使用は安全と考える。この安全性評価は次の特徴を持つヒドロキシアパタイト (ナノ) にのみ適用される：

- 少なくとも 95.8% (粒子の数で) がアスペクト比 3 未満、残りの 4.2%はアスペクト比が 4.9 を超過しない桿状粒子からなる。
- 粒子は被覆や表面加工されていない。

この意見は針状粒子からなるヒドロキシアパタイト (ナノ) には適用されない。また、吸入暴露による消費者の安全性を評価できるデータは提供されていないため、本意見はスプレー製品には適用されない。

4. 査察報告書

- トルコ—汚染物質—ピスタチオと乾燥イチジクのアフラトキシン汚染、乾燥イチジクのオクラトキシン

Türkiye 2022-7390—Contaminants - Aflatoxin contamination in pistachios and dried figs and ochratoxin in dried figs

11-11-2022

<https://ec.europa.eu/food/audits-analysis/audit-report/details/4545>

2022 年 5 月 20 日～6 月 6 日にトルコで実施した、EU 輸出用の乾燥イチジクとピスタチオのアフラトキシン及びオクラトキシン A を管理するためのシステムを評価するための査察。現在、上述の製品に設定されたオクラトキシン A の EU 基準値はない。概して、トルコには EU 輸出用の乾燥イチジクとピスタチオのアフラトキシン汚染を管理するのに必要な法的・組織的な枠組みがあり、管轄機関、生産・販売部門の関係者、認定検査機関はよく務めを果たしている。だが、実際の対策の検証・監視、進捗の把握、加工業者の HACCP 計画の有効性に関する報告が不十分である。輸出前製品の返品率は乾燥イチジクとピスタチオ共に年々増加する傾向にあり、トルコの現在の管理システム能力に問題を投げかけている。必要な輸出用サンプリングと検査はよく行われているが、概して、このシステムは食品及び飼料の緊急警告システム (RASFF) の通知件数を十分に低減できていない。

- ドイツ—事実調査研究—新しいゲノム技術

Germany 2022-7398—Fact finding study - new genomic techniques

11-11-2022

<https://ec.europa.eu/food/audits-analysis/audit-report/details/4543>

2022年3月1～4日にリモートで実施した、ドイツの事実調査研究の結果。この調査の目的は、新しいゲノム技術(NGT)によって得た生物や製品、そのような製品を含む食品や飼料(「NGT製品」)の管理や関連規定の実行に関する情報を集め、優れた実践や共通の障害、困難を特定することだった。調査チームは、ドイツの機関が既知の限られた一連のゲノムの変化や定義されたNGT製品を検出する試験法を開発していることに留意した。これらの方法には、その製品の開発者から、適切な参考資料やゲノムについての関連情報の入手が必要である。一部の管轄機関の代表は、ゲノムへの変化が検出又は特定できても、植物のゲノムの特定の変化が、NGTsの使用、突然変異誘発、伝統的な植物育種、自然変異によって得られたかどうかを見分ける手段がないという懸念を表明した。ドイツの機関は、NGTsなどの遺伝子組換え生物の管理を、輸入品はもちろん、トレーサビリティの改善によりどのように改善できるかも調査中である。研究チームと面会した一部のドイツ作物生産者は、現在のEU法は開発を妨げており、NGTsによって得た製品は遺伝子組換え生物として規制されるべきではないと考えている。

- オランダ—事実調査研究—新しいゲノム技術

Netherlands 2022-7397—Fact finding study - new genomic techniques

11-11-2022

<https://ec.europa.eu/food/audits-analysis/audit-report/details/4544>

2022年2月7～11日にリモートで実施したオランダの事実調査研究の結果。この調査の目的は、新しいゲノム技術(NGT)によって得た生物や製品、そのような製品を含む食品や飼料(「NGT製品」)の管理や関連規定の実行に関する情報を集め、優れた実践や共通の障害、困難を特定することだった。この研究では、オランダの機関が未承認遺伝子組換え生物を検出するためにリスクに基づいた管理を実行していることに留意し、新しいゲノム技術に関連した管理を実行する上での困難さを特定した。困難の主な理由は、NGTs由来の関連するゲノム配列の情報がないこと、参考資料がないこと、植物のゲノム上の特定の変化が、NGTsの使用、又は自然の突然変異の結果、あるいは伝統的な植物育種によるかどうかを見極めるための試験所やその他の手段がないことである。これらの困難を勘案して、未承認遺伝子組換え生物を検出するための管理を計画する際に、NGT製品は特に考慮されていない。研究チームと面会した事業者は、NGTsは伝統的な植物育種と比較して利点があると考えているが、最終製品の開発にはNGTsを使用していない。その主な理由は、EUではNGT製品は遺伝子組換え生物と見なされており、それが開発を妨げていると事業者は考えているからである。

- 管理団体—トルコからEUへの輸出を認証するためのオーガニック生産基準と管理対策

Control Body 2022-7387—Organic production standards and control measures for certifying exports from Turkey to the EU

11-11-2022

<https://ec.europa.eu/food/audits-analysis/audit-report/details/4542>

2022年6月13～30日に実施したトルコの管理団体(CB)によるオーガニック生産基準と管理措置を評価するための査察。CBには管理を指揮し監督する包括的な管理システムや手順があり、製品のトレーサビリティやマスバランスなど、多くの部分はよく実行されている。だが、オーガニック農法情報システムで報告された残留農薬の調査結果を十分にフォローアップせず、管理者のリスク評価が十分堅固ではないなどの要因が実行を弱めている。トルコのCBはEUと同等の管理措置を恒久的に適用しているわけではなく、これによりCBの輸出証明書の提供する保証が弱められている。

- **ドイツー輸入管理**

Germany 2022-7423—Import controls

08-12-2022

<https://ec.europa.eu/food/audits-analysis/audit-report/details/4555>

EUに入る動物と製品の公的管理システムと、国境管理所(BCPs)のEU要件の遵守の検証について2022年3月10日～4月13日までドイツで実施された査察の結果。動物及び動物や非動物由来製品がEUに入ることに関する公的管理システムは一般的によく機能している。だが査察チームが評価したBCPsは最低要件を完全に遵守しておらず、公的管理の組織と実行に欠点を確認され、管理システムの有効性や遵守した製品だけがEUに入る適合性を害している。これらの欠点にもかかわらず、査察チームは違反動物や製品がEUに入るリスクは最小だと見なしている。

- **ギリシャー水産物**

Greece 2022-7452—Fishery products

17-11-2022

<https://ec.europa.eu/food/audits-analysis/audit-report/details/4551>

2022年5月3～17日にギリシャで実施した、公的管理システムの実施を評価するための査察。管轄機関は漁船(一次生産)と水揚げ地点の運営以外の水産物の生産チェーンを十分にカバーする公的管理システムを開発・実行している。漁船の登録不履行、操作者へのリスクに基づいたシステムがないことにより、EU規則遵守の確認能力が妨げられている。公的管理は特定の違反を確認するのに十分効果的ではない。深刻で長期にわたる職員不足、リソース管理の非効率や柔軟性のなさが公的管理の適切な実施を妨げており、定められた公的管理の頻度が守られていない。適切な範囲の公的モニタリングが実施されており、試験所の有能なネットワークに支えられているが、ヒスタミンの分析法は現行の参照法と一致していない。

- **イタリアー乳と乳製品**

Italy 2022-7439—Milk and dairy products

09-12-2022

<https://ec.europa.eu/food/audits-analysis/audit-report/details/4557>

2022年5月2～17日にイタリアで実施した乳と乳製品の安全性に関する公的管理システムを評価するための査察。酪農分野の立法・行政措置が制定され、国内規則ではEU法に沿って特例を提供している。公的管理システムの担当管轄機関(CAs)は明確に指定され、適切な構造と組織、権力がある。酪農企業は、動物の健康と福祉や、動物用医薬品の使用を確認する定期的な公的管理を受けているが、衛生規則の要件遵守の確認は通常限られた農場でしか実施されていない。FBOsはウシ・ヤギ・ヒツジ・水牛の生乳基準の検査も対象としている。生乳の品質に関する違反は、一般に公的管理中、飼育レベルで適切にフォローアップされている。だが、HACCPの原則に基づく独自のサンプリング、ラベリング、トレーサビリティ、手順に関する事業者の義務を効果的に執行していない。

● フィンランド—水産物

Finland 2022-7451—Fishery products

09-12-2022

<https://ec.europa.eu/food/audits-analysis/audit-report/details/4558>

2022年3月14～25日にフィンランドで実施した、公的管理システムが関連するEU法の要件を満たしているか、水産物に関するEU規則がどの程度効果的に実施されているかを評価するための査察。公的管理システムは明確に組織化され、広範で詳細な指示書に支えられている。だが、計画された検査頻度の遵守、限られた人的資源、公的管理中に確認された欠点の評価が過度に肯定的になることが多い、などの欠点に妨げられている。この管理システムは、実際には一次生産の漁船や養殖場をカバーしておらず、ヒスタミン検査や官能検査の適用要件を完全に遵守していない。さらに、管理機関や管理者用ガイダンスは様々な点で現在のEU規則から外れている。

5. 食品及び飼料に関する緊急警告システム (RASFF)

RASFF - food and feed safety alerts

https://food.ec.europa.eu/safety/rasff-food-and-feed-safety-alerts_en

RASFF Portal Database

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/portal/>

01/01/2022～14/01/2022の主な通知内容（ポータルデータベースから抽出）

*基本的に数値の記載がある事例は基準値超過（例外あり）

*RASFFへ報告されている事例のうち残留農薬、食品添加物、食品容器、新規食品、カビ毒を含む天然汚染物質の基準違反等について抜粋

警報通知 (Alert Notifications)

ラトビア産燻製小魚のベンゾ(a)ピレン及び PAH、ドイツ産焙煎済粉末コーヒーのフラン及びフラン誘導体高含有、イタリア産ピザボックスの鉛・フタル酸エステル・DEHP・フタル酸ジ(2-エチルヘキシル)及び光開始剤(1-ヒドロキシシクロヘキシルフェニルケトン)の溶出、イラン産有機ピスタチオカーネルのアフラトキシン、ドイツ産アプリコット種子のシアン化物高含有(複数あり)、リトアニア産アプリコット種子のシアン化物高含有、オランダ産ピスタチオのアフラトキシン、ポーランド産有機皮むきキビのトロパンアルカロイド、中国産ポテトマッシャーからの一級芳香族アミンの溶出、ポーランド産オーストリア経由紅茶のピロリジジンアルカロイド、米国产フードサプリメントの DMAA (ジメチルアミルアミン、メチルヘキサミン)の存在、モロッコ産ハーブティーのピロリジジンアルカロイド (PA)、ベルギー産鳥用配合飼料のヨウシュチョウセンアサガオの種子、中国産メキシコのナチョスの 3MCPD 及びグリシジルエステル類、ボリビア産白ゴマ種子のカドミウム、など。

注意喚起情報 (information for attention)

オーストラリア産生鮮アプリコットのビフェントリン、米国产ピーナッツカーネルのアフラトキシン B1、トルコ産タンジェリンのクロルピリホスメチル及びジメトエート、ポーランド産花粉のピロリジジンアルカロイド、米国产冷凍ロブスターのカドミウム、チュニジア産チルドヨーロッパキダイの水銀、スリランカ産マグロロインのヒスタミン、スペイン産ペストリー作りの装飾用食品着色料の二酸化チタン(E171)、インド産飼料用加水分解ダイズタンパク質のダイオキシン、米国产チリ経由フードサプリメントの水銀高含有、トルコ産ブルガリア経由レモンのブプロフェジン(複数あり)、中国産ゼリーカップのゲル化剤(E407 & E410)、Bangladesh産子供用メラミン製ディナーセットからのメラミンの溶出、中国産塩漬豚のケーシングのセミカルバジド、ドイツ産特別医療目的用食品の未承認物質パルミトイルエタノールアミド、チュニジア産チルドヨーロッパキダイの水銀、オンライン販売されているエストニア産フードサプリメントの未承認成分アシュワガンダ(*Withania spp*)、オランダ産米のトリシクラゾール、など。

通関拒否通知 (Border Rejections)

中国産未承認新規食品(キウイフルーツ抽出物)、トルコ産生鮮オレンジのクロルピリホスメチル、トルコ産生鮮レモンのクロルピリホス、アルゼンチン産茹でピーナッツのアフラトキシン、中国産緑茶のアントラキノン・ホルペット合計及びホルペットと称されるフタルイミド、インドネシア産ナツメグホールのアフラトキシン、トルコ産オレガノのピロリジジンアルカロイド、トルコ産生鮮ペッパーのアセタミプリド、トルコ産乾燥イチジクのアフラトキシン、中国産キャンディの添加物の未承認使用(複数あり)、インド産トルコ経由粉末ナツメグのオクラトキシン A 過多及び未承認物質エチレンオキシド、ジョージア産ナッツのアフラトキシン、中国産キッチン用ヘラの一級芳香族アミン(PAA)の溶出、トルコ産乾燥イチジクのアフラトキシン、トルコ産生鮮ペッパーのフロニカミド、エジプト産ペッパーのフェンプロパトリン(複数あり)、インド産オクラの未承認物質アセフェート及びモノクロトホス、アゼルバイジャン産ヘーゼルナッツカーネルのアフラトキシン B1、エジプト産ネーブルオ

レンジのジメトエート、パキスタン産米のアフラトキシン、中国産乾燥昆布のヨウ素高含有、インド産トルコ経由ターメリック粉末の未承認残留農薬クロルピリホス及びエチレンオキシド、トルコ産ピスタチオのアフラトキシン、米国原産トルコ産殻付きピスタチオのアフラトキシン、エジプト産オレンジの未承認農薬クロルピリホス、トルコ産レモンのブプロフェジン、ドミニカ共和国産アボカドのカドミウム、米国産フードサプリメントの二酸化チタン(E171)、エジプト産殻付きピーナッツのアフラトキシン、など。

● 欧州食品安全機関（EFSA : European Food Safety Authority）

<https://www.efsa.europa.eu/en>

1. 2022 危機準備訓練：年次報告書

2022 Crisis Preparedness Training: Annual Report

EFSA Journal 2022;19(12):EN-7799 23 December 2022

<https://www.efsa.europa.eu/en/supporting/pub/en-7799>

(外部科学報告書)

2022 年に EFSA は重金属の化学物質汚染に関する 2 つの危機準備訓練イベントを開催した。いずれの訓練も、食品の重金属汚染を主軸とする架空のシナリオが演習の焦点となった。シミュレーション演習の要素に加え、両イベントには、フードチェーンの化学物質汚染に関する情報提供、危機対応に関する議論、及び EFSA のツールや手順に関する実技訓練とリハーサルも含まれた。

2. EFSA は新しいロゴで新年を迎えます！

EFSA greets the new year with a new logo!

4 January 2023

<https://www.efsa.europa.eu/en/news/efsa-greets-new-year-new-logo>



EFSA は、全く新しいビジュアルアイデンティティで新年を迎える。これは 20 年間 EU 市民を食品リスクから保護してきた立場や、今後数年多くの課題に直面する我々の立ち位置を反映したものである。

EFSA 戦略 2027 は、過去 20 年に EFSA がどこまで到達したかを捉えている。消費者・動物・環境を保護するリスク評価のための One Health アプローチへの深い関与を確認するだけでなく、私たちの仕事のやり方における透明性や開示性をより強化するための取り組みも強調している。これらの重要な原則を反映した新しい外観とロゴを作り出した。

新しいビジュアルアイデンティティとロゴをどのようにデザインしたか、その背景の意味についての詳細は動画参照。

3. 新規食品関連

- 新規食品としてのナタネ(*Brassica napus* L emend. Metzg.)ホールシードの安全性

Safety of whole seeds of oilseed rape (*Brassica napus* L emend. Metzg.) as a novel food pursuant to Regulation (EU) 2015/2283

EFSA Journal 2023;21(1):7706 12 January 2023

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/7706>

(科学的意見)

欧州委員会からの要請により、栄養・新規食品及び食物アレルギーに関する EFSA のパネル(NDA)は、規則(EU) 2015/2283 に従って、新規食品(NF)としてのナタネのホールシードに関する意見を出すよう求められた。この NF は、ナタネ、特にセイヨウアブラナのダブルロー白花ナタネ品種 (oilseed rape *Brassica napus* L. emend. Metzg) の種子からなる。この NF のナタネは油生産のナタネに伝統的に使用される乾燥・洗浄・保管の手順に沿って生産される。この NF は「特別な成分を加えたブレッドやロールパン」や「グルテンフリーブレッド」の成分としての使用が提案されている。対象集団は一般人である。この NF の最大一日摂取量は幼児に 92.6 mg/kg 体重/日と推定された。パネルは、この NF の摂取は、バックグラウンドの食事からのグルコシノレートの摂取量と比較すると、グルコシノレート摂取量が大幅に増加する可能性があることに留意している。パネルは申請者に、この NF の安全性を裏付ける追加研究を求めたが、提出されなかった。パネルは、提案された使用条件下でのナタネのホールシードの安全性は立証されていないと結論している。

4. 食品接触物質関連

- 使用済 PET を食品接触物質へとリサイクルするために使用される Starlinger deCON テクノロジーに基づく Petecoflex プロセスの安全性評価

Safety assessment of the process Petecoflex, based on the Starlinger deCON technology, used to recycle post - consumer PET into food contact materials

EFSA Journal 2022;21(1):7760 12 January 2023

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/7760>

(科学的意見)

5. 農薬関連

- ジチアノンの既存 MRLs のレビュー

Review of the existing maximum residue levels for dithianon according to Article 12 of Regulation (EC) No 396/2005

EFSA Journal 2023;21(1):7731 9 January 2023

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/7731>

(理由付き意見)

更なる検討が必要。

- **パパイアのマンジプロパミドの輸入トレランス設定**

Setting of import tolerances for mandipropamid in papayas

EFSA Journal 2023;21(1):7741 11 January 2023

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/7741>

(理由付き意見)

- **ニンニク、タマネギ、エシャロットのプロチオコナゾールの既存 MRLs の改定**

Modification of the existing maximum residue levels for prothioconazole in garlic, onions and shallots

EFSA Journal 2023;21(1):7717 9 January 2023

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/7717>

(理由付き意見)

- **ブドウの木の殺線虫剤として植物保護に使用するイガマメ (*Onobrychis viciifolia* var. *Perly*) 乾燥ペレットの承認のための基本物質申請についての加盟国と EFSA の協議結果**

Outcome of the consultation with Member States and EFSA on the basic substance application for approval of sainfoin (*Onobrychis viciifolia* var. *Perly*) dried pellets to be used in plant protection as a nematocide in grapevines

EFSA Journal 2023;20(1):EN-7763 12 January 2023

<https://www.efsa.europa.eu/en/supporting/pub/en-7763>

(技術的報告書)

EFSA が協議結果をまとめ、個別に受け取ったコメントについての EFSA の科学的見解を提示している。

6. 飼料添加物関連

以下全て科学的意見

- **全ての動物種に使用するためのスイートフェネルの果実由来チンキ (スイートフェネルチンキ) からなる飼料添加物の安全性と有効性**

Safety and efficacy of a feed additive consisting of a tincture derived from the fruit of *Foeniculum vulgare* Mill. ssp. *vulgare* var. *dulce* (sweet fennel tincture) for use in all animal species (FEFANA asbl)

EFSA Journal 2023;21(1):7693 3 January 2023

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/7693>

- 全ての動物種に使用するためのパセリの果実由来チンキ（パセリチンキ）からなる飼料添加物の安全性と有効性

Safety and efficacy of a feed additive consisting of a tincture derived from the fruit of *Petroselinum crispum* (Mill.) Fuss (parsley tincture) for use in all animal species (FEFANA asbl)

EFSA Journal 2023;21(1):7694 3 January 2023

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/7694>

- 認可更新のための全ての動物種用 *Lactiplantibacillus plantarum*（以前は *Lactobacillus plantarum*）DSM 19457 株からなる飼料添加物の評価(Biomin GmbH)

Assessment of the feed additive consisting of *Lactiplantibacillus plantarum* (previously *Lactobacillus plantarum*) DSM 19457 for all animal species for the renewal of its authorisation (Biomin GmbH)

EFSA Journal 2023;21(1):7697 6 January 2023

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/7697>

- 全ての動物種に使用される *Anethum graveolens* L.の果実由来チンキ(ディルチンキ)からなる飼料添加物の安全性と有効性

Safety and efficacy of a feed additive consisting of a tincture derived from the fruit of *Anethum graveolens* L. (dill tincture) for use in all animal species (FEFANA asbl)

EFSA Journal 2023;21(1):7691 12 January 2023

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/7691>

- 全ての発育中の家禽種用飼料添加物として *Bacillus velezensis* NRRL B - 67257 株からなる飼料添加物(Correlink™ ABS747)の有効性

Efficacy of the feed additive consisting of *Bacillus velezensis* NRRL B - 67257 (Correlink™ ABS747) as a feed additive for all growing poultry species (Elanco GmbH)

EFSA Journal 2023;21(1):7712 11 January 2023

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/7712>

- 全ての動物種用硫酸リジン第一鉄からなる飼料添加物の有効性の評価

Assessment of the efficacy of a feed additive consisting of ferrous lysinate sulfate for all animal species (Phytobiotics Futterzusatzstoffe GmbH)

EFSA Journal 2023;21(1):7714 11 January 2023

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/7714>

- 認可更新及び雌ブタへの使用拡大のための、全ての反芻動物、イヌ、ネコ用塩化アンモ

ニウムからなる飼料添加物(Amoklor™)の評価

Assessment of the feed additive consisting of ammonium chloride (Amoklor™) for all ruminants, dogs and cats for the renewal of its authorisation and its extension of use to sows (Latochema Co Ltd)

EFSA Journal 2023;21(1):7696 11 January 2023

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/7696>

- 鶏肥育用及び離乳子豚用 *Aspergillus fijiensis* CBS 589.94 株で生産したエンド - 1,3(4) - β - グルカナナーゼからなる飼料添加物の安全性と有効性

Safety and efficacy of a feed additive consisting of endo - 1,3(4) - beta - glucanase produced by *Aspergillus fijiensis* CBS 589.94 (RONOZYME® VP (CT/L)) for chickens for fattening and weaned piglets (DSM Nutritional Products AG)

EFSA Journal 2023;21(1):7703 11 January 2023

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/7703>

- 家禽、豚肥育、離乳子豚及び雌豚用 6 - フィターゼ (*Aspergillus oryzae* DSM 33699 株で生産した)からなる飼料添加物(RONOZYME® Hiphos GT/L)の安全性と有効性

Safety and efficacy of the feed additive consisting of 6 - phytase (produced by *Aspergillus oryzae* DSM 33699) (RONOZYME® Hiphos GT/L) for poultry, pigs for fattening, weaned piglets and sows (DSM Nutritional Products Ltd)

EFSA Journal 2023;21(1):7698 11 January 2023

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/7698>

- 哺乳及び離乳子豚用、豚肥育用、子牛飼育及び肥育用のサッカリンナトリウムからなる飼料添加物の安全性

Safety of a feed additive consisting of sodium saccharin for suckling and weaned piglets, fattening pigs, calves for rearing and for fattening (FEFANA asbl)

EFSA Journal 2023;21(1):7710 13 January 2023

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/7710>

-
- 英国 食品基準庁 (FSA : Food Standards Agency) <https://www.food.gov.uk/>

1. 少数のヒト母乳製品のリコールに関する通知

Notification of a recall of a small number of human breast milk products

6 January 2023

<https://www.food.gov.uk/news-alerts/news/notification-of-a-recall-of-a-small-number-of-human-breast-milk-products>

英国食品基準庁（FSA）は、NeoKare Nutrition Limited 製のヒト母乳製品に高濃度の鉛が含まれていたことについて、調査を行っている。

この会社はオンラインで少数の母乳製品を人々に販売しており、また 13 の病院がこの会社から母乳を供給されていた。このうち 7 つの病院が製品を使用し、製品のの一つは一部の病院で少数の未熟児に、臨床試験の一環としてあるいは代替栄養として与えられた。

この会社の販売する全ての製品がリコール又は回収されている。問題の製品を与えられた子供の家族には国営保健サービス（NHS）が連絡を取っている。健康へのリスクは低いだろう。

低濃度の鉛は多くの食品に存在するが、なぜ当該製品に高濃度の鉛が含まれたのかは調査中である。法律上、母乳に鉛の最大基準値はないが、「特別医療目的用食品」には法的な鉛の最大基準値が定められており、製品の一部はこのカテゴリーに属する。

2. FSA は共有キッチンでの学生の食品安全行動に関する研究を共有する

FSA has shared research on students food safety behaviours in shared kitchens

10 January 2023

<https://www.food.gov.uk/news-alerts/news/fsa-has-shared-research-on-students-food-safety-behaviours-in-shared-kitchens>

英国食品基準庁（FSA）はスコットランド食品基準局（FSS）と協力して、食品安全と食料安全保障に関する学生の知識、態度、行動を調査するために調査を委託した。

共有キッチンを清潔に保つことは難しく、多くの学生が推奨される食の安全や衛生に関する行動をとらず、食中毒の危険にさらされている。調査によって学生を危険にさらしている多くの行動を明らかにしている。

* 報告書

Exploring food behaviours in the UK student population: Interim findings

<https://www.food.gov.uk/research/food-behaviours-in-the-uk-student-population-executive-summary>

-
- 英国環境・食料・農村地域省（DEFRA : Department for Environment, Food and Rural Affairs）<https://www.gov.uk/government/organisations/department-for-environment-food-rural-affairs>

1. グレートブリテン植物バイオセキュリティ戦略(2023年から2028年)

Plant biosecurity strategy for Great Britain (2023 to 2028)

9 January 2023

<https://www.gov.uk/government/publications/plant-biosecurity-strategy-for-great-britain-2023-to-2028>

この戦略は、英国政府、スコットランド政府、ウェールズ政府、林業委員会(FC)の間の広範な協力から生まれた。この戦略の範囲は、樹木を含む植物及び製品(例えば、野菜、植物学的意味での果物、木材包装材料、切り花)のバイオセキュリティに限定される。

4つの重要アウトカムを挙げている：

- 1：ワールドクラスのバイオセキュリティ計画
- 2：健康的な植物に価値をおく社会
- 3：バイオセキュアな植物サプライチェーン
- 4：技術的能力を強化

貿易や気候変動などで植物病虫害の脅威が高まる中、ハイテクゲノム手法から広範な市民の参加する市民科学まで、あらゆるレベルでのバイオセキュリティのレベルアップと将来への備えを推進、啓発、モニタリング、技術開発等が必要である。1971年以降、樹木に影響を及ぼす新たな病虫害の発生数は累積的に増加し、2002年以降発生頻度が著しく増加している。

2. イングランドにおける使い捨てプラスチックの広範囲に及ぶ禁止

Far-reaching ban on single-use plastics in England

14 January 2023

<https://www.gov.uk/government/news/far-reaching-ban-on-single-use-plastics-in-england>

政府の意見募集を経て、イングランドでは2023年10月から一連の汚染源になる使い捨てプラスチックが禁止されるだろう。環境大臣 Thérèse Coffey が、一連の汚染源になる使い捨てプラスチックが禁止されると本日発表した。対象となるのは、使い捨てプラスチック皿、トレー、ボウル、カトラリー、風船の棒、ある種のポリスチレンカップや食品容器など。2023年10月から、人々はこれらの製品をどんなところでも買うことはできない。

意見募集に回答した人の95%以上が禁止に賛成していたことが、本日(2022年1月14)に公表された政府の回答で明らかになった。ただし、包装済み食品のパッケージに使われるトレーやボウルは高いリサイクル目標を設定した製品責任法計画に含まれるため、この禁止対象ではない。

● 通常捨てられる使い捨てプラスチック製品：エビデンス募集

Commonly littered single-use plastic items: call for evidence

Last updated 14 January 2023

<https://www.gov.uk/government/consultations/commonly-littered-single-use-plastic-items-call-for-evidence>

意見募集の結果

- 要約と政府の対応

Summary of responses and government response

Updated 14 January 2023

<https://www.gov.uk/government/consultations/commonly-littered-single-use-plastic-items-call-for-evidence/outcome/summary-of-responses-and-government-response>

2020年にプラスチックストローや飲み物のかき混ぜ棒と綿棒の供給を制限し、2023年10月からは使い捨てプラスチック皿、カトラリー、風船のプラ棒、発泡及び押し出しポリスチレン製食品・飲料の容器の供給を禁止する意向を発表している。2021年11月にさらなる禁止提案とともに、将来の政策のために通常捨てられる問題のあるプラスチックアイテムについての根拠を求めた。特にウェットティッシュ、タバコのフィルター、小袋、使い捨てコップ及び再利用や詰め替えの障害を克服するために政府ができることに関心がある。合計2,173の意見が寄せられた。

-
- 英国飲料水監査局 (DWI : Drinking Water Inspectorate) <https://www.dwi.gov.uk/>

1. 研究報告「飲料水のための水の再利用についての人々の認識」の発表

Publication of research report “Public Perception of Water Recycling for Drinking Water Use

20 December 2022

<https://www.dwi.gov.uk/publication-of-research-report-public-perception-of-water-recycling-for-drinking-water-use/>

このレポートでは、飲料水の供給源としての水のリサイクル(水の再利用)に向けた一般市民の態度と容認性を理解するために飲料水管理事務所(Drinking Water Inspectorate)から委託された調査の要約を提供する。

- Public Perception of Water Recycling for Drinking Water Use

<https://www.dwi.gov.uk/research/completed-research/consumer/public-perception-of-water-recycling-for-drinking-water-use/>

2022年7月～9月にオンライン調査(対象:成人1,618名)と詳細なインタビューを実施した。

飲料水の供給を補充するためのリサイクル水利用については比較的高い(79%)支持がある。水のリサイクル支持率には、リサイクル計画の構造よりも用語の方が強く影響する。また、いくつかの助言も行っている。1)簡単な説明の付いたシンプルな静止画又は動画を使って、飲料水製造のための水循環の概念を伝える。2)コミュニケーションは、現在の飲料水の基準とモニタリング方法を強調し、水循環システムから得られた既存の水質データを可能な限り透明化する。3)正確で中立的な専門用語の一貫性を保ち、不必要に廃水や下水との関

連を強調しない。4)政府、規制当局及び水道事業者間の連携したメッセージとアプローチを支援するための共通の指針を作成する。5)コミュニケーションは水資源の復元力を高めることを目的とした多様な解決策の範囲内で水循環を行う必要がある。6)学界の独立した専門家の委員会のパネルが提案や試行のレビューを行い、影響力を持つ可能性のある幅広い利害関係者や他の国での戦略に直接関与する、等。

2. 水質規制基準レビュー

Water Quality regulatory standards review

4 January 2023

<https://www.dwi.gov.uk/water-quality-regulatory-standards-review/>

DWI は現在の水質規制基準の見直しのための専門家による基準助言委員会を準備しており、現在委員を選定中である。委員会は飲料水基準について大臣に助言する。

- 基準助言委員会

Advisory Standards Board

<https://www.dwi.gov.uk/what-we-do/advisory-standards-board/>

2020年1月31日に英国が公式にEUを離脱し、このときからEU飲料水指令を採用する義務がなくなった。EU指令を国の規制にするため2年の猶予が与えられ、スコットランドと北アイルランドはEU指令を採用したが、イングランドとウェールズは採用しないことを決定し、そのため基準委員会が設立された。

現在関心のあるパラメーターとして以下の化学物質があげられている：亜塩素酸/塩素酸、ハロ酢酸、内分泌攪乱物質、微生物学的指標、ミクロシスチンLR、PFAS、PFOA、PFOS、ウラン、鉛、変色金属、脱塩ミネラル。

- ドイツ連邦リスクアセスメント研究所 (BfR : Bundesinstitut für Risikobewertung)

<https://www.bfr.bund.de/en/home.html>

1. 肥育動物における抗生物質の使用は減少傾向

Declining Trend in the Use of Antibiotics in Fattening Animals

20.12.2022

https://www.bfr.bund.de/en/press_information/2022/47/declining_trend_in_the_use_of_antibiotics_in_fattening_animals-309389.html

ドイツ連邦リスク評価研究所(BfR)は抗生物質の使用頻度と消費量に関するデータを評価する。

肥育動物における抗生物質の使用は次第に減少している。これは、BfRによる「使用頻度と抗生物質消費量 2018-2021 : 食肉生産用に飼育される牛・豚・鶏・七面鳥における動向」

の報告結果である。BfR は毎年、ドイツ連邦州が提供する抗生物質の使用に関するデータの評価や、抗生物質耐性のリスク評価の実施を任されている。今回発表されたこの報告書では、BfR は 2018～2021 年のデータを十分考慮し、2017 年のものと比較している。「いいニュースは、変動はあるものの、検討した家畜種で抗生物質の総消費量が減少していることである」と、この報告書を作成した疫学・人畜共通感染症及び薬剤耐性ユニット長である Annemarie Käsbohrer 医学博士は述べた。と殺する動物の抗生物質耐性菌の発生も減少している。「だが、この減少は動物種によって異なり、観察された消費量の減少を反映していない。我々は、耐性率を長期的に低下できるよう、細菌の耐性化をよりよく理解し、削減するための取り組みを強化する必要がある」と Käsbohrer 博士は述べた。

＊報告書「治療頻度と抗生物質消費量 2018-2021：食肉生産用に飼育される牛・豚・鶏・七面鳥における動向」（ドイツ語）

<https://www.bfr.bund.de/cm/343/therapiehaeufigkeit-und-antibiotikaverbrauchsmengen-2018-2021-bericht>.

BfR はこの報告書で 4 つのパラメーターに焦点を当てた。最初に、農場レベルでの使用頻度を検討した。この値は、家畜動物に抗生物質効果のある物質を 6 ヶ月のうち平均して何日適用したかを示している。これらの値は肥育若鶏と七面鳥、肥育子豚と豚、肥育牛と肉牛に算出された。6 ヶ月間抗生物質を全く使用しない農場、いわゆるゼロユーザー農場も特定できた。さらに BfR は、抗菌物質がどの動物種に最も多く使用されているか（集団全体の使用頻度）、その期間に消費量がどのくらい生じたかを調査した。

半年あたりのゼロユーザー農場の割合が最も高かったのは肉牛だった。これらの農場の約 85%は 6 ヶ月間抗生物質を使用しなかった。肥育牛農場の半数強は、6 ヶ月間全く抗生物質を使用しなかった。肥育豚と子豚の場合、6 ヶ月間抗生物質を使用しなかったゼロユーザー農場は農場の約 1/4 を占めた。肥育若鶏と七面鳥では、ゼロユーザー農場の割合は半年あたり 15～20%と幅があった。

2017～2021 年の間に常に均等に分布しているわけではないが、全ての動物種の抗生物質の消費量に減少傾向が見られる。抗生物質の最大量は今なお肥育豚で使用され、次いで子豚、七面鳥、鶏、牛の順である。肥育肉牛の消費量はごくわずかである。特に、ヒトの治療に特に重要な抗生物質グループの減少が全ての動物種で観察されたことも歓迎される。

個々の半年間ではより高い値が見られたが、多くの場合、個々の農場での抗生物質の平均投与頻度は減少傾向を示した。しかしながら、2017～2021 年には肥育若鶏農場で明確な上昇傾向が見られた。農場レベルでの平均治療頻度は 4.8 日増えた。

集団全体の治療頻度はこの傾向を反映している。最大頻度が観察されたのは家禽で、平均使用頻度は 20～25 日、次いで肥育牛と子豚が 10～15 日、肥育豚は約 3 日間だった。

BfR は、肥育動物の抗生物質の使用について現在入手できるデータと、ドイツ連邦州とドイツ連邦消費者保護・食品安全庁(BVL)が共同で行った耐性モニタリングからのデータも比較した。耐性モニタリングでは、動物の種別によって差はあるものの、個別の活性物質では耐性率の増加より減少が観察された。しかしながらその変化は、個別の動物種で最も使用削

減した抗生物質クラスに必ずしも関連していなかった。

従って、BfRの見解によると、耐性の広まりを防ぎ、長期にわたって耐性率を低下させるには、抗生物質の使用を削減する努力を継続・強化しなければならない。今回発表されたこのBfRの報告書の法的根拠は、2022年1月28日の動物用医薬品規則(TAMG)である。この法律では、食肉生産用の牛、豚、鶏、七面鳥を飼育する農場は、抗生物質の使用を文書で記録し、担当する州機関に報告しなければならないと規定している。このデータは匿名形式でBfRに転送される。

BfRは、2018年の上半期から2021年の下半期まで半年間のデータ8回分を評価し、2017年の状況と比較した。今後BfRは、使用頻度や抗生物質の消費量が時間と共にどのように進展するか、毎年調べる予定である。これは、ドイツ政府の抗生物質最小化戦略の効果や、畜産からヒトへの耐性菌の伝染リスクを評価するための重要な構成要素である。

抗生物質最小化戦略の目的は、ヒトに感染する可能性のある病原菌の耐性の発生を防ぐために家畜の抗生物質の使用を削減することである。人々が抗生物質耐性菌と接触すると、病気の治療に必要な抗生物質療法が効かなくなる。抗生物質の使用に関するデータの評価や細菌耐性発生のリスク評価により管轄機関が消費者保護政策を実行する基盤が提供される。

2. あなたの食品に何が入っているか—BfR MEAL Study

What's in your food - the BfR MEAL Study

05.01.2023

<https://www.bfr.bund.de/cm/364/whats-in-your-food-the-bfr-meal-study.pdf>

BfR MEAL Studyは、いわゆるトータルダイエットスタディ(TDS)である。FAO/WHOが推奨する方法で、平均的な食事に含まれる物質の平均濃度を測定し、食事由来の摂取量の推定を行う。

● BfR MEAL Study

05.01.2023

<https://www.bfr.bund.de/cm/364/bfr-meal-study-flyer.pdf>

2023年版パンフレット：BfR MEAL Studyでは、約60,000種類の食品に含まれる約300の物質について、重金属・環境汚染物質、加工副生成物類、食品添加物類、食品接触物質類、マイコトキシン類、残留農薬類、パーフルオロアルキル化合物類、栄養素類及び薬理活性物質類のいわゆる9つのモジュールに分類し分析した。

3. ニッケル：BfR MEAL Studyに基づく食品を介した長期摂取量の推定

Nickel: estimate of long-term intake via food based on the BfR MEAL Study

29.12.2022

<https://www.bfr.bund.de/cm/349/nickel-estimate-of-long-term-intake-via-food-based-on-the-bfr-meal-study.pdf>

ニッケルは、地殻の構成要素として環境中に広く存在する金属である。天然資源ではあるが、工業用途に使用されるため、飲料水や食品に含まれることもある。ニッケルの長期経口摂取によるヒトへの影響を評価する場合、動物実験では胎仔の発育への有害影響が同定されている。2020年、欧州食品安全機関（EFSA）は、食品中のニッケルの健康リスクを再評価し、耐容一日摂取量（TDI）を13 µg/kg 体重/日と導出した。

BfR は、MEAL Study において、ニッケルなどの様々な物質の検出を目的として、ドイツで最も一般的に消費される食品の90%を分析した。その結果は、主要食品群である「豆類、ナッツ類、油糧種子及びスパイス類」と「コーヒー、ココア及び茶」は平均濃度が最も高く、それぞれ約1.6 mg/kg と約1.5 mg/kg である。ココアパウダーは約11.1 mg/kg と最も高く、次いでカシューナッツが約5.4 mg/kg であった。ニッケル摂取量への寄与度は、よく消費される「穀類及び穀類加工品」に属する食品が最も高く、成人及び青少年では24%、子供では28%である。

成人及び青年の場合、MEAL データに基づいて計算した食品を介したニッケルの平均摂取量は、健康影響に基づく指標値（TDI）の11%に相当する。子供のTDIに占める摂取量の割合は、平均42%である。一部（5%未満）の高暴露の子供（0.5～5歳）では、ニッケル摂取量がTDIを超過している。EFSAの推定（2020年）によると、幼児（1～3歳未満）及びその他の子供（3～10歳未満）の高い暴露量は通常TDIを超え、乳児（1歳未満）にも見られることが示されている。それゆえ、EFSAの見解では、食品を介したニッケルの摂取は、若い年齢層で健康上の懸念がある。接触性アレルギーを持つ人がニッケルを経口摂取した場合、アレルギー性皮膚反応を誘発したり、その反応を悪化させたりする可能性もある。しかし、BfR MEAL Study (TDS) は長期的な暴露を決定することのみを目的とし、方法論的な理由から、現在のデータでは、この急性影響に関して、食品を介したニッケルの暴露を評価することはできない。

近年、BfR は、ニッケルを含む多くの製品（玩具、タトゥー、アロマキャンドルなど）について意見を公表している。（https://www.bfr.bund.de/en/a-z_index/nickel-130376.html）

ドイツにおける一般消費者のニッケルの食事暴露量は、ドイツ初のTDSとして、BfR MEAL Study に基づいて決定された。子供は、青少年や成人と比較して、暴露量が多い。他の欧州諸国の暴露評価と比較すると、現在の摂取量は同程度である。青少年と成人の場合、習慣的な食事による暴露は、TDIよりも有意に低い。タバコの煙や粉塵、土壌粒子など、その他の潜在的な暴露源は、この暴露評価の一部として考慮されていない。

-
- オランダ国立公衆衛生環境研究所（RIVM : National Institute for Public Health and the Environment）<https://www.rivm.nl/en>

1. DIY 製品ファクトシート。消費者暴露を推定するためのデフォルトパラメーター—2022

更新バージョン

Do-It-Yourself Products Fact Sheet. Default parameters for estimating consumer exposure – Updated version 2022

10-01-2023

<https://www.rivm.nl/publicaties/do-it-yourself-products-fact-sheet-default-parameters-for-estimating-consumer-exposure>

塗料や洗剤、化粧品などを消費者が屋内で使用したときに、特定の化合物にどれくらいの量で暴露されるかを計算できる Web アプリケーション(ConsExpo Web)が使えるようになっている。使用者向けにデフォルトモデルと暴露値を入れ DIY 製品のファクトシートが提供されている。そのような値の例は、使用頻度及び量による。改訂では、最新のデータソースについての説明、新しい情報の質のレビュー及び必要に応じたデフォルト値の補正が提供されている。また、改訂された DIY 製品ファクトシートと並行して、接着剤、シーリング材、充填剤、コーティング剤及びその他の製品の ConsExpo アプリケーションのデフォルト値が更新される。

-
- フランス食品・環境・労働衛生安全庁 (ANSES : Agence Nationale de Sécurité Sanitaire de L'alimentation, de L'environnement et du Travail)
<https://www.anses.fr/en>

1. トコジラミを全滅させる最終手段としてのみ化学物質を使用すること

Only use chemicals as a last resort to eradicate bed bugs

22/12/2022

<https://www.anses.fr/en/content/chemicals-resort-eradicate-bed-bugs>

いったん家にトコジラミがはびこると、それらを駆除するのは難しい。人はこれらの寄生虫の執拗さに直面すると、殺虫剤に頼ることもある。だが、それらの使用にリスクがないわけではない：2007年～2021年に、これらの化学物質による中毒事例は、重篤なものも含めて1,000件以上報告された。従ってトコジラミを全滅するには、最初は非化学的手段を選んだ方がよい。

特に執拗な寄生虫

トコジラミは、通常マットレスやベッドのフレームに潜む小さな昆虫である。彼らは血を吸って生き、夜間に人間を刺す。旅行や、中古の寝具、家具、本、洋服の購入の際に、衣服や荷物の中で運ばれることがある。

トコジラミは、餌がなくても平均寿命が1年を越える可能性があるため、特にしつこい。雌は1日に5～15個の卵を産むため、増殖の速度が非常に早い。

誰でも影響を受ける可能性がある

2016年～2020年の間に、フランス人の7%がトコジラミの影響を受けたと推定された。トコジラミの存在は不潔を示すものではなく、誰でも家庭でまん延の犠牲になる可能性がある。

トコジラミは病気を伝染させないが、刺されるとかゆみやアレルギー反応の原因となる。それらがはびこると、被害者はこれらの害虫に無力感を感じ、心理状態に影響する可能性もある。これにより不適切な駆除方法を使用する可能性があり、効果がなく危険なものも含まれている。

化学物質の使用は中毒を起こす可能性がある

寄生虫が増えるにつれ、中毒管理センターではこれらの寄生虫を駆除するために用いる化学物質による中毒事例をより多く目にしている。報告された主な症状は、呼吸困難、咳、口腔咽頭の痛みと刺激、かゆみ、頭痛、目まいなどである。死者1名を含む深刻な中毒事例も報告されており、多くはフランスで禁止されている製品による。

非化学物質手段を選ぶことから始めよう

トコジラミを全滅させるのに、殺虫剤に頼る前に、保健省は以下の実践を推奨している：

- 卵や寄生虫を捕らえるために表面全てに徹底的に掃除機をかけること。次に吸入管を掃除し、掃除機の紙パックをビニール袋で包み、他の場所を汚染するのを避けるために屋外のゴミ入れに捨てること。
- 服やリネンを洗濯機で55°C以上の温度で洗うこと。
- 洗濯機がなければ、服を72時間以上、-17°Cの冷凍庫に入れること。
- 高温(120°C以上)のドライスチームクリーナー(レンタル可能)で手の届きにくい表面や内装材を掃除し、トコジラミのライフサイクルの全段階で死滅させること。

うまくいかななくても、自分で殺虫剤をまこうとせずに害虫駆除の専門家に連絡を取ること。どの場合も、製品の散布後は、指示された再入室時間、すなわち散布処理領域に安全に戻れる時間に従うことが大切である。これにより中毒のあらゆるリスクを避けられる。

*詳細

Vigil'Anses 記事「トコジラミの駆除に使用する製品に注意」の全文を読む(フランス語)

Read the complete Vigil'Anses article "Exercise caution with the products used to eradicate bed bugs" (PDF)

https://vigilanses.anses.fr/sites/default/files/VigilAnsesN18_Novembre2022_Punaises.pdf

-
- 米国食品医薬品局 (FDA : Food and Drug Administration) <https://www.fda.gov/>

1. ジュース中のヒ素及び鉛の検査結果

FDA は、果実・野菜ジュース中のヒ素と鉛について定期的に汚染実態調査を実施し、そ

の結果を公表している。

- リンゴジュース中のヒ素

- Analytical Results for Total Arsenic in Single-Strength Apple Juice Sampled Under the FDA's Toxic Elements in Food and Foodware, and Radionuclides in Food – Import and Domestic Compliance Program (FY2013-FY2022)

Posted December 2022

<https://www.fda.gov/media/164093/download>

FDA の食品及び食品用具中の有害元素、食品中の放射性核種のコンプライアンスプログラムの一環として、2013-2022 会計年度に FDA が分析したリンゴジュース（ストレート）における総ヒ素の検査結果。

- Speciation Results for Arsenic Analysis in Single-Strength Apple Juice Sampled Under the FDA's Toxic Elements in Food and Foodware, and Radionuclides in Food – Import and Domestic Compliance Program (FY2013-FY2022)

Posted December 2022

<https://www.fda.gov/media/164091/download>

リンゴジュース（ストレート）に関する上記検査結果のうち、選択されたヒ素の種類（総ヒ素、無機ヒ素、モノメチルアルソン酸、ジメチルアルシン酸）について分析した結果。

- ジュース中の鉛

- Analytical Results for Lead in Juice Sampled Under the FDA's Toxic Elements in Food and Foodware, and Radionuclides in Food – Import and Domestic Compliance Program

(FY2005-FY2018)

Posted April 2022

<https://www.fda.gov/media/157533/download>

FDA の食品及び食品用具中の有害元素、食品中の放射性物質のコンプライアンスプログラムの一環として、FDA が分析を行った 2005-2018 会計年度のジュースサンプル 1,643 件の鉛の検査結果。

* ヒ素に関する専用サイト

Arsenic in Food and Dietary Supplements

<https://www.fda.gov/food/environmental-contaminants-food/arsenic-food-and-dietary-supplements>

* 鉛に関する専用サイト

Lead in Food, Foodwares, and Dietary Supplements

<https://www.fda.gov/food/environmental-contaminants-food/lead-food-foodwares-and->

[dietary-supplements](#)

*上記の他に、FDA が実施した調査結果を学術雑誌に発表している。【その他】の項に紹介。

◆ そのまま喫食可能なベビーフード中の有害元素に関する US 市場調査 2021 年

A survey of toxic elements in ready to eat baby foods in the US market 2021

Food Addit Contam Part B Surveill. 2022 Dec 20;1-7. (Online ahead of print)

doi: 10.1080/19393210.2022.2146209.

◆ 米国で市販される海藻中のヒ素の種類

Arsenic Species in Seaweeds Commercially Available in the United States

ACS Food Sci. Technol. 2021, 1, 4, 511–523

doi: 10.1021/acsfoodscitech.0c00120

◆ FDA の「Closer to Zero」行動計画を支援するため食事からの鉛の暫定参照値の更新

Updated interim reference levels for dietary lead to support FDA's Closer to Zero action plan

Regul Toxicol Pharmacol. 2022 Aug;133:105202.

doi: 10.1016/j.yrtph.2022.105202.

2. FDA は Food Code の 2022 版を発表

FDA Releases 2022 Food Code

December 28, 2022

<https://www.fda.gov/food/cfsan-constituent-updates/fda-releases-2022-food-code>

FDA は 2022 年版 Food Code (第 10 版) を発表した。小売店における食中毒リスクを軽減し、小売店の食品安全に関する全国統一基準を提供するために、州及び地方当局と小売店へ提供するガイダンスである。今回初めて食品の寄付について具体的に取り上げた。

主な変更点は以下の通り：

- 主要食物アレルゲンとしてゴマを追加。
- 包装されていない食品に含まれる主要な食物アレルゲンについて、消費者に書面で通知すること。
- 消費者が自分で小分け可能なバルク食品に主要な食物アレルゲンの表示を追加する。
- 屋外飲食スペースでのペット犬の許容に関する新たな要件の設定。
- 調理時間・温度要件を明確にするための改善を含む、無処理の肉 (intact meat) の定義の改訂 (新しい定義：粉碎、機械的な軟化、溶液の真空タンブリング、成型、角切り又は叩くといった処理を施していない食肉の全筋の切り身)

その他の変更点を含めた 2022 年 FDA Food Code の変更点概要は次のサイトを参照：

<https://www.fda.gov/food/fda-food-code/summary-changes-2022-fda-food-code>

*2022 年 FDA Food Code

<https://www.fda.gov/media/164194/download>

3. FDA の警察長官：グローバル化と e コマースの課題への適応

FDA's Top Cop: Adapting to Challenges of Globalization and E-commerce

December 28, 2022

<https://www.fda.gov/international-programs/global-perspective/fdas-top-cop-adapting-challenges-globalization-and-e-commerce>

退職する FDA の犯罪捜査担当副長官 Catherine Hermsen のインタビュー。グローバル化の増加と e コマースの台頭によってもたらされる課題、COVID 関連の詐欺やその他の食品及び薬物犯罪の問題への対応を含め、30 年を振り返る。

4. FDA は食品表示最終規則の統一遵守日を発表

FDA Issues Uniform Compliance Date for Final Food Labeling Regulations

December 30, 2022

<https://www.fda.gov/food/cfsan-constituent-updates/fda-issues-uniform-compliance-date-final-food-labeling-regulations>

米国食品医薬品局（FDA）は 2023 年及び 2024 年に公表される食品表示最終規則の遵守日を 2026 年 1 月 1 日に統一することを発表した。

*参考：食品安全情報（化学物質）No. 1/ 2023（2023. 01. 06）

【USDA】食品表示規則の統一遵守日(2022)

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202301c.pdf>

5. FDA は乳児用調製乳移行計画に関する承認書を発行

FDA Issues Letters of Acknowledgement for Infant Formula Transition Plan

January 9, 2023

<https://www.fda.gov/food/cfsan-constituent-updates/fda-issues-letters-of-acknowledgement-infant-formula-transition-plan>

米国 FDA は、過去に特定の乳児用調製乳製品について執行裁量通知書を受け取り、米国市場に留まるための措置を講じることに関心を示したすべての乳児用調製乳製造業者に対して、FDA が承認書を送付したことを発表した。FDA は、米国における乳児用調製乳の供給者の多様性を高め、安定供給を支援するために、乳児用調製乳製品の製造業者が FDA のすべての要件を満たす努力をしながら、製品の販売を継続する道を提供する。

2022 年 9 月に発行されたガイダンスにより、現在米国で施行裁量により製品を販売している乳児用調製乳の製造業者は、特定の乳児用調製乳製品について、すべての規制要件の遵守を追求する意図を表明した文書を 2022 年 12 月 5 日までに FDA に送付することが勧告された。FDA は企業からの意向書を検討し、規制要件の遵守に向けて企業側と直接やり取りを行っている。ガイダンスには、適用されるすべての要件を遵守するためにメーカーが取

るべき行動のタイムテーブルが示されている。FDA は 4 つの業界ウェビナーを主催し、ガイダンスの概要と質問に答え、遵守に向けた要件や推奨事項を示した。

* 関連記事

食品安全情報（化学物質） No.21/ 2022（2022.10.12）

【FDA】乳児用調製乳の供給を増やすための製造業者への執行裁量

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202221c.pdf>

6. シーフードの天然毒素とスコンブroid魚中毒に関連する病気とアウトブレイクの調査表更新

Investigated Illnesses and Outbreaks Table Update for Seafood Related Natural Toxin and Scombrototoxin Fish Poisoning

January 12, 2023

<https://www.fda.gov/food/outbreaks-foodborne-illness/how-report-seafood-related-toxin-and-scombrototoxin-fish-poisoning-illnesses>

FDA が効果的に調査し、安全でない水産物を市場から排除し、新しい予防戦略を開発するのを支援するために、FDA は公衆衛生当局と医療提供者からの病気の報告に依存している。ほとんどの食品媒介アウトブレイクは FDA のアウトブレイク対応評価統合(CORE)ネットワークを通じて追跡されるが、天然毒素によって引き起こされるシーフード関連の病気には独自の報告メカニズムがある。このウェブページでは、一般的に発生するシーフード関連の病気に関する情報と、それらを FDA に報告する方法を提供している。

以下更新

- 22-08-15: スコンブroid魚中毒(SFP);ツナ、2 例、ニュージャージー州
- 22-08-17: SFP;マヒマヒ、1 例、バージニア州
- 22-09-16: シガテラ魚中毒(CFP);バラクーダ、1 例、プエルトリコ
- 22-09-18: SFP;ツナ、1 例、オレゴン州
- 22-09-20: CFP/SFP;レッドスナッパー、2 例、サウスカロライナ州
- 22-10-21: Unknown;ロブスター、ホタテ貝、1 例、カリフォルニア州
- 22-11-22: SFP;マヒマヒ、1 例、ニューハンプシャー州
- 22-12-23: SFP;ツナ、2 例、マサチューセッツ州

7. FDA と Stop Foodborne Illness が食品安全文化の学習とトレーニングのウェビナーを共同開催する

FDA and Stop Foodborne Illness to Co-Host Webinar on Food Safety Culture Learning and Training

January 10, 2023

<https://www.fda.gov/food/cfsan-constituent-updates/fda-and-stop-foodborne-illness-co-host-webinar-food-safety-culture-learning-and-training>

米国食品医薬品局（FDA）と非営利の公衆衛生団体である Stop Foodborne Illness は、「Food Safety Culture Learning: It's more than checking the boxes」と題した第 6 回ウェビナーを 2023 年 1 月 25 日 12 時～13 時まで（東部時間）開催する。食品安全文化がトレーニングや教育とどう関連するかに焦点を当てる。ウェビナーへの登録はこのサイトから：https://zoom.us/webinar/register/WN_8O4IWIKbSicMI_EfY2HoCw

8. FDA はヒト及び動物用食品の輸入業者向けの外国供給業者検証プログラム最終ガイダンスを発行する

FDA Issues the Foreign Supplier Verification Programs for Importers of Food for Humans and Animals Final Guidance

January 10, 2023

<https://www.fda.gov/food/cfsan-constituent-updates/fda-issues-foreign-supplier-verification-programs-importers-food-humans-and-animals-final-guidance>

FDA は、ヒト及び動物用食品の輸入業者向けの外国供給業者検証プログラム(FSVP)の最終ガイダンスを発行した。今回のガイダンスは 2018 年に発行したガイダンス草案を最終化したものである。ガイダンス草案に対するコメントに対応して、FSVP 規則が適用される食品に関して更に明確化した。食品のハザード分析、外国供給業者の業績と食品がもたらすリスク評価、適切な外国供給業者の検証活動の決定と実施のための要件に関する推奨事項などが含まれる。

これとは別に、FDA は食品安全予防管理アライアンス(FSPCA)と協力し、輸入業者による FSVP 規則の遵守を促進するためのトレーニング資料を開発した。

9. 警告文書

● Land View, Inc.

NOVEMBER 07, 2022

<https://www.fda.gov/inspections-compliance-enforcement-and-criminal-investigations/warning-letters/land-view-inc-638704-11072022>

動物用薬用飼料の CGMP（適正製造基準）、不正表示の問題。高濃度のオキシテトラサイクリンを含む。

● Bainbridge Beverage West, LLC

NOVEMBER 28, 2022

<https://www.fda.gov/inspections-compliance-enforcement-and-criminal-investigations/warning-letters/bainbridge-beverage-west-llc-638942-11282022>

果汁の HCCAP、食品の CGMP 違反、衛生管理の問題。

● EarthLab, Inc., dba Wise Woman Herbals

NOVEMBER 10, 2022

<https://www.fda.gov/inspections-compliance-enforcement-and-criminal-investigations/warning-letters/earthlab-inc-dba-wise-woman-herbals-638942-11282022>

[investigations/warning-letters/earthlab-inc-dba-wise-woman-herbals-634872-11102022](https://www.fda.gov/inspections-compliance-enforcement-and-criminal-investigations/warning-letters/earthlab-inc-dba-wise-woman-herbals-634872-11102022)

ダイエットサプリメントの CGMP 違反、不正表示の問題。ハーブ製品を含む。

- **PharmaCanna**

JANUARY 05, 2023

<https://www.fda.gov/inspections-compliance-enforcement-and-criminal-investigations/warning-letters/pharmacanna-647390-01052023>

新型コロナウイルス（COVID-19）に関連する未承認の医薬品、不正表示。CBD 製品を含む。

- **Distributor RFR, LLC**

JANUARY 09, 2023

<https://www.fda.gov/inspections-compliance-enforcement-and-criminal-investigations/warning-letters/distributor-rfr-llc-643724-01092023>

未承認の医薬品、不正表示の問題。製品成分にシルデナフィルを含む。

- **Florida Gold Foods LLC**

NOVEMBER 22, 2022

<https://www.fda.gov/inspections-compliance-enforcement-and-criminal-investigations/warning-letters/florida-gold-foods-llc-637153-11222022>

食品の CGMP、調理、包装、衛生管理の問題。

- **Medical Mikes, Inc.**

JANUARY 10, 2023

<https://www.fda.gov/inspections-compliance-enforcement-and-criminal-investigations/warning-letters/medical-mikes-inc-647603-01102023>

COVID-19 に関連する未承認の医薬品、不正表示。CBD 製品を含む。

- **Purecraft LLC**

JANUARY 10, 2023

<https://www.fda.gov/inspections-compliance-enforcement-and-criminal-investigations/warning-letters/purecraft-llc-648077-01102023>

COVID-19 に関連する未承認の医薬品、不正表示。CBD 製品を含む。

- 米国環境保護庁（EPA : Environmental Protection Agency）<https://www.epa.gov/>

1. EPA はプラスチックや化学物質製造に使用される PFAS の全国検査戦略下で次の検査命令を発行

EPA Issues Next Test Order Under National Testing Strategy for PFAS Used in Plastics, Chemical Manufacturing

January 4, 2023

<https://www.epa.gov/newsreleases/epa-issues-next-test-order-under-national-testing-strategy-pfas-used-plastics-chemical>

本日、EPA は、EPA の PFAS 全国検査戦略の下、PFAS について検査を要求する次の有害物質規制法 (TSCA) 検査命令を発行した。これにより、企業は、プラスチック製造に使用される PFAS であるヘキサフルオロプロピレンオキシド(HFPO)の検査を行って結果を報告する義務を負う。今回の検査命令は、PFAS 検査戦略の下で発行される 2 番目の検査命令である。

● List of Chemicals Subject to Section 4 Test Orders

LAST UPDATED ON JANUARY 4, 2023

<https://www.epa.gov/assessing-and-managing-chemicals-under-tsca/list-chemicals-subject-section-4-test-orders>

2016 年の TSCA の改正以来、EPA は以下の 12 種類の化学物質について第 4 条検査命令を発行してきた。(訳注：TSCA 第 4 条は、EPA が化学物質製造業者（輸入業者を含む）及び加工業者に対し、化学物質に関する情報の提供を義務付けることを認めている)

1,1,2-トリクロロエタン、1,1-ジクロロエタン、1,2-ジクロロエタン、1,2-ジクロロプロパン、4,4'-(1-メチルエチリデン)ビス[2,6-ジブromoフェノール]、6:2 フルオロテロマースルホンアミドベタイン、アントラ[2,1,9-def:6,5,10-d'e'f]ジイソキノリン-1,3,8,10(2H,9H)-テトラン又は CI ピグメントバイオレット 29、o-ジクロロベンゼン、p-ジクロロベンゼン、リン酸トリフェニル、trans-1,2-ジクロロエチレン、ヘキサフルオロプロピレンオキシド(HFPO)。

2. EPA は新しい PFAS 解析ツールを発表

EPA Releases New PFAS Analytic Tools

January 5, 2023

<https://www.epa.gov/newsreleases/epa-releases-new-pfas-analytic-tools>

EPA は新しいインタラクティブウェブページ「PFAS Analytic Tools (PFAS 解析ツール)」を発表する。

PFAS 解析ツールは、調べた地点のマッピング、チャート作成、及びフィルタリング機能を使用して複数の情報を 1 つにまとめ、調査が行われた場所と測定された検出のレベルを確認できる。そして、このウェブページは、地域社会が地元の PFAS の排出源をよく理解することに役立つ。

● PFAS Analytic Tools

<https://echo.epa.gov/trends/pfas-tools>

使用法、解説等、各種 PFAS の関連データを図にまとめたもの。含まれるデータは、州及び地域の飲料水検査データ(これまで 6 種類の PFAS のデータだったが 2023 年からは 23 種類増えて合計 29 種類の PFAS が対象)、PFAS の製造と輸入データ、PFAS の環境中のサンプリング、水質保全法の排出監視、PFAS が検出されたスーパーファンドサイト、連邦サイ

ト、PFAS を取り扱っている可能性のある産業界の施設、PFAS の移動、流失、有害物質放出目録。データは春と秋に年に 2 回更新される。

-
- NIH (米国国立衛生研究所) のダイエタリーサプリメント局 (ODS : Office of Dietary Supplements) <https://ods.od.nih.gov/>

1. スcoop-2022 年 12 月 (亜鉛について)

The Scoop-December 2022

December 20, 2022

<https://content.govdelivery.com/accounts/USNIHODS/bulletins/33d5775>

<重要な栄養素、亜鉛に関する情報の Q&A>

亜鉛はとった？この重要な栄養素に関する本質的事実

亜鉛は、健康な免疫システム、タンパク質や DNA の生成など、体内で多くのことを行うために必要なミネラルである。また、亜鉛は妊娠中、乳幼児期、小児期、青年期における体の成長や発達を助ける働きもある。

肉類、魚類、その他の魚介類 (特に牡蠣) 及び家禽類はすべて亜鉛のよい摂取源である。豆類、ナッツ類、全粒穀物、卵、乳製品、栄養強化朝食用シリアルからも亜鉛を摂取することができる。マルチビタミン/ミネラルのサプリメントを含む多くのダイエタリーサプリメントにも、亜鉛が含まれている。

Q. 亜鉛はどのくらい必要か、また不足するとどうなるか？

A. 女性は 1 日に 8 mg、男性は 11 mg の亜鉛が必要である。妊娠中や授乳中の場合はもう少し必要である。亜鉛欠乏では、味覚や嗅覚の喪失、頻繁な感染症、傷の治りにくさ、脱毛など、いくつかの問題が生じる。また、高齢者では思考力、論理的思考力、記憶力に支障をきたすこともある。乳幼児や子供の場合、亜鉛の欠乏は下痢、成長の遅れ、食欲不振を引き起こすことがある。また、これらの乳幼児や子供が大人になったときに、生殖に問題を起こすこともある。

Q. 米国では亜鉛欠乏はよくあるか？

A. 米国ではほとんどの人が十分な亜鉛を摂取している。しかし、ベジタリアンやビーガンの食事は、植物性食品には動物性食品ほど亜鉛が含まれていないため、不足する可能性がある。その他、消化器系の疾患や消化器系の手術を受けた人、妊娠中や授乳中の人、アルコール使用障害のある人、鎌状赤血球症の子供、一部の乳幼児などは、亜鉛を十分に摂取できない可能性がある。

医療従事者は、十分な亜鉛を摂取しているかどうか、また、摂取していない場合はどうしたらよいかを判断する手助けをする。例えば、亜鉛を含む食品を食事に取り入れること、ダイエタリーサプリメントを摂取することを勧める可能性がある。

Q. 亜鉛は COVID-19 の予防や治療に役立つか？

A. 十分な亜鉛を摂取することは健康な免疫系に重要であるが、亜鉛のサプリメントによって COVID-19 に罹患するリスクを下げたり、早く回復したりすることは示されていない。例えば、ある研究では、亜鉛のサプリメントを定期的に摂取している人は、亜鉛のサプリメントを摂取していない人に比べ、COVID-19 に罹患するリスクは低下しなかった。別の研究では、COVID-19 に罹患した人を 4 つのグループに分け、10 日間、以下のいずれかを摂取させた：亜鉛 50 mg、ビタミン C 8,000 mg、両方のサプリメント、又はどちらも摂取しない。亜鉛により症状の期間は短縮しなかった。

Q. 亜鉛と他の疾患についてはどうか？

A. 亜鉛はある種の人々のある種の疾患に役立つ可能性がある。例えば、亜鉛を含むトローチは、風邪の症状が出た後すぐに飲み始めると、風邪の回復を早める可能性がある。さらに、亜鉛のサプリメントは、発展途上国の子供たちの下痢の期間を短縮するのに役立つ。これらの子供たちは、亜鉛欠乏あるいは栄養失調であることがよくある。米国の子供たちのように、亜鉛を十分に摂取している子供たちの下痢に、亜鉛のサプリメントが有効かどうかははっきりしない。

Q. 亜鉛の過剰摂取は健康に害となるか？

A. なる。亜鉛の過剰摂取は吐き気、めまい、頭痛、胃の不調、嘔吐、食欲不振などの症状を引き起こすことがある。また、亜鉛の過剰摂取を長期間続けると、免疫力が低下し、HDL（「善玉」）コレステロールの値が下がり、体内の銅の値が下がることもある。

成人は、医療従事者が推奨しない限り、食品やサプリメントから 1 日 40 mg を超える亜鉛を摂取してはならない。

* 亜鉛の詳細については、最近更新した亜鉛のファクトシートがあるが、(<https://ods.od.nih.gov/factsheets/Zinc-Consumer/>) 医療従事者に相談すること。

● カナダ食品検査庁 (CFIA : Canadian Food Inspection Agency)

<https://inspection.canada.ca/eng/1297964599443/1297965645317>

1. 乳児用シリアルでのデオキシニバレノール—2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日

Deoxynivalenol in Infant Cereals – April 1, 2018 to March 31, 2019

2023-01-11

<https://inspection.canada.ca/food-safety-for-industry/food-chemistry-and-microbiology/food-safety-testing-bulletin-and-reports/deoxynivalenol-in-infant-cereals/eng/1671718224941/1671718225589>

デオキシニバレノール(DON) (別名ボミトキシン) は、農場が暖かく湿った気候条件にな

ると農作物に生育する可能性のあるカビが放出する毒素である。DON はがんの原因とはならないが、急性及び慢性影響があることが示されている。最新の調査は 2013 年から 2014 年にかけて行われた。それ以降、アジアで発生した吐き気、嘔吐、腹痛、頭痛、めまいなどの急性症状の大流行は、非常に大量の DON を含む穀類の摂取が原因であるとされている。さらに、市場が変化している（オーガニック製品への切り替えが進む、ブランドの出現/消滅）ため、情報を更新するために新たなターゲット調査が行われた。

調査期間中に、カナダの 6 都市の小売店から合計 288 のサンプルが集められ、DON の検査を受けた。DON は 13 のサンプル（14.5%）から 44.1～250 ppb の範囲で検出された。カナダ保健省(HC)はカナダの乳児用シリアル中の DON に基準値を設定しておらず、検出された DON の濃度が消費者に有害かどうか判断するために、乳児用シリアルに関連した陽性結果はカナダ保健省の化学物質安全局がレビューした。カナダで入手可能な乳児用シリアルの DON の汚染率と濃度は低く、以前の調査や他の地域（米国、EU、英国）と同程度である。HC はこれらのサンプルの濃度はカナダの消費者に健康上のリスクをもたらしと判断したため、この調査による製品リコールはなかった。乳児用シリアルは 3～5 年後に DON の再検査をする予定である。

2. 特定食品中のオクラトキシン A—2012 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日及び 2019 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日

Ochratoxin A in Selected Foods – April 1, 2012 to March 31, 2018 and April 1, 2019 to March 31, 2022

2023-01-11

<https://inspection.canada.ca/food-safety-for-industry/food-chemistry-and-microbiology/food-safety-testing-bulletin-and-reports/ochratoxin-a-in-selected-foods/eng/1671631241637/1671631242246>

オクラトキシン A (OTA) は、保管中の暖かく湿った気候条件により、農作物に生育する可能性のあるカビが放出するマイコトキシンである。OTA は腎臓がんを引き起こす可能性があり、肝臓、発育中の胎児、免疫系に有害影響がある。

ココア、コーヒー、ドライフルーツ、穀類加工食品、乳児用調製乳、リコリス（甘草）製品、ナッツ及びナッツバター、豆製品、種子類、大豆製品、スパイスは OTA に汚染されやすいことから、今回のターゲット調査の対象として選択した。

検査にあたり、カナダの 6 都市の小売店から合計 8384 のサンプルが集められた。OTA は 4056 (48%)サンプルに検出された。各品目における検出濃度の平均値は 0.20（ナッツ及びナッツバター）～22 ppb（スパイス）で、最大濃度はスパイスの 1770 ppb であった。

カナダ保健省は OTA の最大基準値をいくつか提案している：穀類加工食品は 3 ppb、乳幼児用穀類加工食品は 0.5 ppb、小麦ブラン（ふすま）は 7 ppb、ドライフルーツ（レーズン、カラント、サルタナ）は 10 ppb。これらの製品の遵守率は 96.95%だった。次の製品には現在 OTA の基準値はない：その他の穀類、ココア、コーヒー、リコリス、その他ドライ

フルーツ、ナッツ及びナッツバター、豆類、種子類、大豆製品、スパイス。これらの製品に関連する全ての結果は、検出された OTA 濃度が消費者に有害かどうか判断するために、カナダ保健省の化学物質安全局(BCS)がレビューした。これらのサンプルのレベルはカナダの消費者に健康リスクをもたらさなかったため、この調査による製品リコールはなかった。

CFIA はカナダの食品供給の安全性を確保するために、様々な食品中の OTA レベルを引き続き監視する。

-
- オーストラリア・ニュージーランド食品基準局 (FSANZ : Food Standards Australia New Zealand) <https://www.foodstandards.gov.au/Pages/default.aspx>

1. 食品基準通知

- **Notification Circular 224-22**

5 January 2023

<https://www.foodstandards.gov.au/code/changes/circulars/Pages/Notification%20Circular%20224-22.aspx>

新規申請と提案

- 新規食品としての *Rhodomonas salina* (単細胞遊泳性鞭毛藻類) バイオマス及び抽出物。

- **Notification Circular 225-23**

16 January 2023

<https://www.foodstandards.gov.au/code/changes/circulars/Pages/Notificationcircular225-23.aspx>

意見募集

- アルコール飲料へのエネルギー表示 (締め切りは 2023 年 2 月 27 日)

改訂

- 加工助剤としての GM *Bacillus licheniformis* 由来 α アミラーゼ
- 植物ベースのミルク代用品への新規食品としての植物ステロール、植物スタノールあるいはそのエステルの添加

-
- オーストラリア・ニューサウスウェールズ州食品局 (The NSW Food Authority) <https://www.foodauthority.nsw.gov.au/>

1. FAQ : Broken Bay の有毒な藻の発生について

FAQ: Broken Bay toxic algal bloom

23 Dec 2022

<https://www.foodauthority.nsw.gov.au/news/departmental-media-releases/faq-broken-bay-toxic-algal-bloom>

NSW 食品局は、局所的な有毒藻類による麻痺性貝毒 (PSP) のリスクがあるため、Broken Bay 地域で採取又は捕獲した貝類を食べないように助言する。

2. 2022 夏の Foodwise ニュースレター

Foodwise issue 62, Summer 2022

<https://www.foodwise.foodauthority.nsw.gov.au/edition62/index.html>

食品の安全性と緊急のバイオセキュリティ対応を導くための NSW 戦略、Foodservice Australia 2022 (約 400 の出展者がオーストラリア国内外から最新の食品、飲料、設備を 3 日間にわたって展示)。主な内容は、NSW の第一次産業省 (DPI) が採用した CSIRO の食品安全真菌コレクション、食料大臣会議の結果、食品安全管理ツール、食品安全の展示 (NSW 州食品局は、食品規制パートナーシップを通じて地方自治体と協力して地域の食品小売事業者向けに食品安全情報を提供した。)、使い捨てプラスチックの禁止、オーストラリアの鶏肉産業のための国家計画と環境ガイドライン、鶏肉の重要性評価、オーストラリアの貝類生産の変革プロジェクトの最新情報、水産物のビブリオリスク管理、等。

● 香港政府ニュース <https://www.cfs.gov.hk/english/index.html>

Centre for Food Safety of Food and Environmental Hygiene Department, The Government of the Hong Kong Special Administrative Region の承諾を得て掲載しています。

1. Food Safety Focus-スコンブロイド魚中毒症

Food Safety Focus- Scombrotoxin Fish Poisoning

21 Dec 2022

https://www.cfs.gov.hk/english/multimedia/multimedia_pub/multimedia_pub fsf 197_0 1.html

食品安全センター(CFS)は、2022 年 10 月に衛生署衛生保護センターからマグロの切り身によるスコンブロイド魚中毒(SFP)の疑いがあるとの通知を受け、原因食品のサンプルを採取した。検査の結果、冷凍マグロの切り身のサンプルに、食中毒を引き起こす濃度のヒスタミンが含まれていた。関連輸入業者、供給業者、レストランは、CFS の勧告に従って販売

を中止し、影響を受けた製品を廃棄した。輸入業者もリコールを開始した。CFS はまた、SFP のわずかな増加を香港で観察しており、2018 年と 2019 年には記録された事例がなかったが、2022 年 11 月時点では、2020 年に 1 例、2021 年に 2 例、2022 年に 4 例である。

スコンプロイド魚中毒とは？

スコンプロイド魚中毒は「ヒスタミン中毒」とも呼ばれ、高濃度のヒスタミンを含む魚の摂取によって引き起こされる。SFP に関与する魚種には通常、組織内に高濃度のアミノ酸ヒスチジンが含まれており、マグロ、イワシ、アンチョビ、マヒマヒ、ニシン、マカジキ、オキスズキ、サケ、ブリ、メカジキなどが含まれる。捕獲後、不適切な温度で魚を処理、保存すると、魚の天然の微生物叢の一部である細菌が増殖する。細菌の酵素であるヒスチジン脱炭酸酵素がヒスチジンをヒスタミンに変換する。ヒスタミンは、魚の捕獲から消費までのフードチェーンに沿って生成される可能性がある。魚の細菌増殖の結果として生成される他の生体アミンは、ヒスタミンの毒性影響を増強する可能性がある。加熱調理やホットスモーキングなどの熱処理は、ヒスタミン生成菌を死滅させ、ヒスタミン産生酵素を不活性化する可能性があるが、ヒスタミン自体は熱に安定である。一度生成されたヒスタミンは、加熱調理や缶詰、冷凍では破壊できない。ヒスタミンに汚染された魚は、金属性の異臭、悪臭、変色した外観を持つことがあるが、中には正常の魚のような外見、匂い、味であるものもあるため、官能評価に頼ることはできない。

スコンプロイド魚中毒の症状

SFP に罹患すると、口の周りのピリピリ感や灼熱感、顔の紅潮や発汗、吐き気、嘔吐、頭痛、動悸、めまい、発疹などの 1 つ以上の症状を示すことがある。通常、症状の発症は汚染された魚を摂取してから 5 分から 2 時間後と早く、たいてい 8~12 時間続く。SFP の症状は最大で数日間続く可能性があるが、長期的な後遺症はない。SFP が致死的になることは稀であると考えられている。

ヒスタミンのリスク評価

FAO/WHO は、50 mg 以上のヒスタミンに暴露された人は、急性ヒスタミン中毒の症状を呈す可能性があると考えた。通常、ヒスタミンは数時間以内に体外排出されるため、魚を含む連続した食事の累積的な影響は予想されない。

スコンプロイド魚中毒の予防措置

高濃度のヒスタミンは、魚や水産物を長時間にわたり不適切な温度で扱う場所や保管する場所での、温度と時間が関係した誤った扱いによる細菌作用の結果である。そのため、魚は死後すぐに冷蔵し、捕獲から消費までコールドチェーンを維持する必要がある。冷蔵の魚や水産物は 4°C 以下、冷凍したものは -18°C 以下で保存すること。加熱調理済みの魚やそのまま喫食可能な魚製品(例：ツナサンドや開封した魚の缶詰)は、ヒスタミン生成菌によって再汚染される可能性があるため、すぐに消費しない場合は冷蔵保存する必要がある。ヒスタミンが生成されやすくなるため、冷凍魚を室温で解凍しないこと。冷凍品は冷蔵庫の一部分を利用したり、水道水で流水解凍したり、電子レンジで解凍したりして、適切に解凍すること。

CFS は、「スコンブロイド魚中毒の防止に関する食品安全助言」を発行している：https://www.cfs.gov.hk/english/multimedia/multimedia_pub/files/N5675_FEHD_Scombrotoxin%20Fish%20Poisoning_Booklet.pdf

2. イタリア保健当局の報告：基準値超過のオクラトキシンのため、CAFFE' TROMBETTA SpA のコーヒー製品のイタリアでのリコールに関する通知

The Ministry of Health of Italy - Notices regarding recall of coffee products in Italy by CAFFE' TROMBETTA SpA due to ochratoxin exceeding regulatory limits.

3 January 2023

https://www.cfs.gov.hk/english/rc/subject/files/20230103_1.pdf

イタリア保健当局が CAFFE' TROMBETTA SpA のコーヒー製品に対するリコールを通知した。リコール対象製品は 5 つで詳細はイタリア保健当局のウェブサイトを確認できる。CFS は当該製品が香港に輸入されているかどうかを確認中である。オンラインや海外旅行での購入の可能性は否定できない。

3. 違反情報

● 洋ナシのサンプルで金属汚染が基準値超過

Metallic Contamination exceeds legal limit in Pear sample

Wednesday December 28, 2022

https://www.cfs.gov.hk/english/unsat_samples/20221228_10055.html

洋ナシのサンプルから基準値 0.1 ppm を超える 0.5 ppm の鉛が検出された。

● 中国ケールのサンプル中の残留農薬が基準値超過

Pesticide residue exceeds legal limit in Chinese Kale sample

Tuesday, January 10, 2023

https://www.cfs.gov.hk/english/unsat_samples/20230110_10080.html

中国ケール（カイラン）のサンプルから基準値 2 ppm を超過する 3.54 ppm のジメトモルフが、基準値 0.1 ppm を超過する 1.97 ppm のピラクロストロビンが検出された。

● マンゴーの 2 サンプル中の残留農薬が基準値超過

Pesticide residue exceeds legal limit in two mango samples

Tuesday, January 10, 2023

https://www.cfs.gov.hk/english/unsat_samples/20230110_10079.html

マンゴーの 2 サンプルからそれぞれ基準値 0.45 ppm を超過する 0.78 ppm、1.65 ppm のフルジオキシニルが検出された。

- 韓国食品医薬品安全処 (MFDS : Ministry of Food and Drug Safety)

<https://www.mfds.go.kr/eng/index.do>

1. 日本産輸入食品の放射能検査の結果

輸入検査管理課

- 2022.12.23～2022.12.29

https://www.mfds.go.kr/brd/m_100/view.do?seq=43296

- 2022.12.16～2022.12.22

https://www.mfds.go.kr/brd/m_100/view.do?seq=43295

2. 蜂蜜製品に液状果糖を混入して製造・販売した業者を摘発

危害事犯中央調査団 2022-12-20

https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=46894

食品医薬品安全処は蜂蜜に添加してはいけない液状果糖（異性化糖）を混入して蜂蜜製品を製造・販売した食品業者代表を「食品衛生法」違反容疑で検察に送検し、業者については管轄官庁に行政処分を要請した。

捜査の結果、2019年1月頃から2022年4月頃まで養蜂農家などから購入した蜂蜜（56トンほど）に購入原価の低い*液状果糖を混入し、原料蜂蜜購入重量より4倍以上になった製品を0.6～2.4 kg単位で小分・包装する方法で製造し、流通業者（26箇所）など**に約227トン、14億5,000万ウォン相当を販売したことが確認された。

業者は製品を違法に製造し、あたかも天然の蜂蜜製品（アカシア蜂蜜、百花蜜、飼養蜂蜜製品）であるかのように蜂蜜100%製品と表示して販売した。また、自身が製造した製品の製造・販売内訳を確認できないように食品の取引記録を一切作成せず、原料購入と製品販売時にほとんど現金のみで取引し、意図的に証拠を隠滅し犯行を隠そうとする緻密さを見せた。ちなみにこの業者は過去にも砂糖などを入れた偽蜂蜜を製造し摘発された事実がある。

<添付> 製品写真

3. 飼養蜂蜜を天然蜂蜜と虚偽表示・販売した行為など集中取締りの結果、7業者を摘発・措置

食品安全の現場調査 TF 2022-12-29

https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=46926

食品医薬品安全処は蜂に砂糖を与え採蜜・熟成した蜂蜜を天然蜂蜜であるかのように表示して販売した違法行為を集中的に取締まった結果、合計7業者を「食品衛生法」と「食品等の表示・広告に関する法律」違反で摘発し、管轄官庁に行政処分を要請し告発措置した。

食薬処は蜂蜜を天然蜂蜜と偽り販売する事例があり、消費者被害を予防するために今回の点検を実施し、10月26日から12月21日まで天然蜂蜜と表示された20製品を回収して炭素同位体比を検査し表示基準の遵守を集中点検した。点検の結果、主な違反内容は、▲炭

素同位体比の規格違反、▲食品類型の虚偽表示、▲飼養蜂蜜の案内文の未表示などである。天然蜂蜜と表示された 20 製品を検査した結果、炭素同位体比の基準値*を超過した合計 5 製品が飼養蜂蜜と判定された。

* 判定基準：炭素同位体比 (‰) が-22.5‰以下は天然蜂蜜、-22.5‰超は飼養蜂蜜と判定
業者は炭素同位体比を測定し、その結果に応じて食品の種類を蜂蜜（アカシア蜂蜜、蜂蜜又は百花蜂蜜など）、飼養蜂蜜などに区分表示しなければならない。

また、飼養蜂蜜については食品の種類を「飼養蜂蜜」と表示し、12 ポイント以上の文字で「この製品は蜂の飼育過程で、蜜蜂が砂糖を食べて貯蔵し生産した飼養蜂蜜です」という案内文を表示する必要がある。しかし、今回摘発された 5 個の飼養蜂蜜を生産した業者は、製品の前面などに「野生の花蜂蜜 100%」、「アカシア蜂蜜」、「柑橘類の花蜂蜜」などと表示して、食品の種類を「蜂蜜」と虚偽表示し飼養蜂蜜の案内文を表示しなかった。特に 2 つの業者は、あたかも天然蜂蜜基準に適合（炭素同位体比-22.5‰以下）したように見せるために、「-22.5‰」製品と表示した。

<添付>

- 1.蜂蜜と飼養蜂蜜 Q&A
- 2.検査状況及び詳細な違反内容
- 3.違反製品の写真

4. コエンザイム Q10 など機能性原料 9 種「摂取時の注意事項」を追加

食品基準課 2022-12-28

https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=46921

食品医薬品安全処はコエンザイム Q10 など健康機能性や食品機能性の原料 9 種*の再評価を行い、その結果をもとに「摂取時の注意事項」、「一日摂取量」などを 2023 年に改正・補完する予定である。

* コエンザイム Q10、スクアレン、共役リノール酸、N-アセチルグルコサミン、オート麦食物繊維、イヌリン／チコリ抽出物、キトサン／キトオリゴ糖、キシロオリゴ糖、L-カルニチン酒石酸塩

食薬処は 2017 年から健康機能性や食品機能性の原料に対する再評価を毎年実施しており、昨年までに合計 55 個の原料に対する再評価の結果、54 個の原料に対して基準・規格を改正するなど継続的に安全性・機能性を管理している。今年は機能性の認定後 10 年が経過した原料（コエンザイム Q10 など 6 種）と、異常事例報告などにより安全性・機能性の再確認が必要な原料（イヌリン／チコリ抽出物など 3 種）を対象に、認定当時の資料、認定後の安定性・機能性文献など関連情報を総合的に検討して再評価した。

再評価結果は、▲摂取時の注意事項追加（9 種）、▲「キトサン／キトオリゴ糖」の食後の血糖値減少機能の追加、▲一日摂取量の変更（2 種）、▲重金属の規格変更（4 種）、▲機能性を立証する資料補完（2 種）などである。

（摂取時の注意事項追加）異常な事例報告に対する管理を強化するため、機能性原料 9 種

すべてに「異常な事例発生時に摂取を中止し、専門家と相談すること」という摂取時の注意事項を製品に表示する。また、機能性の原料別に敏感な年齢層や特定疾患を持つ人が摂取する際の注意事項、医薬品と一緒に摂取する場合の注意事項を追加する。

* (例) (スクアレン・キトサン／キトオリゴ糖など) 子供・妊婦・授乳婦は摂取を避けること、(共役リノール酸) 肝疾患のある人は摂取前に専門家と相談すること、(コエンザイム Q10) 抗凝固剤の服用時は摂取を避けること。

機能性の内容追加「キトサン／キトオリゴ糖」の「食後の血糖値減少に役立つ」という機能性は 2018 年に個別認定を受けており、最初に認定された時点を基準に 3 年*が経過することにより告示型に切替わる。

※ 個別認定を受けた機能性は、最初に認定された業者の認定日から 3 年が経過した場合、「健康機能食品の基準及び規格」に追加登録

一日摂取量の変更「オート麦食物繊維」と「キトサン／キトオリゴ糖」は一日摂取量の範囲に対する再評価の結果を反映し、機能性と安全性確保のために範囲を再設定する。また、「キトサン／キトオリゴ糖」の場合、告示型に切替わった機能性に関する一日摂取量を新設定する。

*[範囲再設定]オート麦の食物繊維：血中コレステロールの改善（オート麦の食物繊維として 3 g 以上→4.5 g 以上）、食後の血糖値上昇の抑制（オート麦食物繊維として 0.8 g 以上→6.0 g 以上）、キトサン／キトオリゴ糖：血中コレステロールの改善（キトサン又はキトオリゴ糖 1.2～4.5 g→キトサン 1.2～4.5 g）／[新設]食後の血糖値減少（キトオリゴ糖 0.75 g）追加

重金属の規格変更「共役リノール酸」と「キトサン／キトオリゴ糖」は鉛などの重金属規格を強化し、「キシロオリゴ糖」と「L-カルニチンタルトレート」は重金属の項目用語を整備（総ヒ素→ヒ素、総水銀→水銀）する。

* (例) 共役リノール酸：鉛 (mg/kg) 3.0→1.0 以下、カドミウム (mg/kg) 1.5→0.3 以下
機能性を立証する資料補完「スクアレン」の抗酸化機能性と「N-アセチルグルコサミン」の皮膚保湿の機能性について、該当業者にヒトでの適用試験の資料の補完・提出を要請し、今後提出される立証された資料を検討して機能性の維持・変更など措置する予定である。

食薬処は、今後も消費者が安心して健康機能性の食品を購入できるよう、最新の科学的文献・情報などを基に機能性原料の安全性と機能性を再評価する。また、健康機能性の食品の再評価過程の透明性と今後の基準変更の予測できる可能性のために、健康機能性の食品の再評価対象、計画及び結果を継続的に公開していく。

<添付> 健康機能性食品の機能性原料の再評価結果

5. 中国産乾燥キクラゲに対する輸入業者の検査命令の施行

輸入検査管理課 2022-12-23

https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=46909

食品医薬品安全処は輸入者が輸入キクラゲなどに対して、検査を実施して安全性を立証

しなければ国内に持ち込むことができない「検査命令」を12月24日から中国産の乾燥食品（残留農薬項目*）に対して適用する。

* カルベンダジム（殺菌剤）、チアメトキサム（殺虫剤）、トリアジメノール（殺菌剤）、トリアジメホン（殺菌剤）

今回の検査命令は多様な食品の原料として使われる中国産の乾燥キクラゲから残留農薬の不適合が反復的に発生したことにより輸入業者の安全管理責任を強化するための措置である。

<添付>

1.輸入食品など検査命令の運営状況

2.中国産乾燥キクラゲの写真

6. 食薬処、代替食品の定義と安全管理の基準を用意

食品基準課 2022-12-22

https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=46903

食薬処は代替食品と高血圧患者用食品の安全管理の基準を新設することを主な内容とする、「食品の基準及び規格」告示改正案を12月22日に行政予告する。今回の改正案は代替食品や患者用食品などフードテック基盤食品の安全基準を先制的に設け、将来の食品産業の成長を推進する一方、菜種油のエルカ酸*や玄米の無機ヒ素の基準などを新設して国内流通食品の安全管理を強化するために設けられた。

* 菜種に含まれる心臓毒性のある脂肪酸（一日摂取許容量 0.4 g/60 kg 体重/日）

主な内容は、▲代替食品の定義・基準新設、▲高血圧の患者用食品と水分・電解質サプリメント食品の食品類型・標準製造の基準新設、▲菜種油（キャノーラ油）のエルカ酸の基準新設、▲玄米の無機ヒ素の基準新設、▲残留農薬・動物用医薬品の残留許容の基準新設・改正などである。

代替食品の定義・基準新設

最近、多様な代替食品が開発・生産されるなど市場規模が拡大*されることにより、代替食品に対して効率的に安全管理ができるよう「代替食品として表示して販売する食品」の定義と基準・規格を新設する。

* 国内植物たんぱく質ベースの代替食品の市場規模は2016年には4,760万ドル（約618億）規模、2017年から年平均15.7%成長し、2026年には2億1,600万ドル（約2,800億）に達すると予想（経済研究院農政フォーカス、'20年）

（定義）「代替食用として表示して販売する食品」の定義を動物性原料の代わりに植物性原料、微生物、食用昆虫、細胞培養物などを主原料として使用して食用油脂類（植物性油脂類は除く）、食肉加工品及び培養肉、卵加工品、乳加工品、水産加工品、その他の食肉又は、その他の卵製品などと同様の形態、味、食感などを有するように製造したことを表示して販売する食品として規定する。

（基準・規格）代替食品であることを表示して販売する場合、既存に適用していた個々の食

品類型の基準・規格に加え、新設された代替食品の共通*基準・規格まで適用する。

* 酸価、過酸化価、大腸菌群、細菌数、大腸菌

高血圧の患者用食品と水分・電解質サプリメント食品の食品類型・標準製造の基準新設

高血圧、高熱・急性下痢患者など関連した疾患患者用の食品が多様に製造できる基盤を設ける。現在、患者用食品は糖尿病患者用など4つの疾患用*に対してのみ標準製造基準を提供しており、高血圧などその他の患者用食品は製造者が直接基準を設けて実証資料を準備しなければならない困難があった。

* (現行の標準製造基準) 糖尿病患者用、腎疾患患者用、腸疾患患者用、がん患者用

慢性疾患の疾患管理に役立つように今回、高血圧の患者用食品と水分・電解質サプリメント食品の食品類型と標準製造基準を新設する。

ちなみに食薬処は様々な種類の患者用食品が開発・供給できる基盤を用意するため6月にがん患者用の食品の基準を新設し、2026年までに肺疾患患者など3種の基準を追加用意*する計画である。

* (追加対象) 肺疾患用 ('24)、肝疾患用 ('25)、炎症性の腸疾患用 ('26)

菜種油 (キャノーラ油) のエルカ酸の基準新設

現在、食用菜種油の製造時には有害毒性のある脂肪酸であるエルカ酸含有量を下げた改良された菜種種子 (キャノーラ、Jungmo7001 など) *が使用されており、別途にエルカ酸の基準を定めていない。ただし、菜種栽培時にエルカ酸の含有量の高い野生菜種が混入して栽培される可能性があり、多くの国**でエルカ酸の基準が定められている点を考慮して、菜種油のエルカ酸含有量基準 (2%以下) を新設する。

* (キャノーラ) Canadian Oil Low erucic Acid、カナダ産の低エルカ酸の菜種種子、(Jungmo7001) 国内産の低エルカ酸の菜種種子 (農村振興庁国立食糧科学院)

* (エルカ酸の基準) Codex、米国、カナダ、EU 2%以下

玄米の無機ヒ素の基準新設

今年の重金属の基準の再評価の結果、食品の摂取による無機ヒ素の暴露量は安全な水準だったが、摂取量が増加した玄米の先制的な安全管理のために国際基準 (CODEX) である 0.35 mg/kg 以下で玄米の無機ヒ素の基準を新設する。

※ 現行の無機ヒ素の基準：(精米) 0.2 mg/kg 以下、(玄米、米糠、米の胚芽、ひじき又はアカモクを使用した加工品) 0.1~1 mg/kg 以下

残留農薬・動物用医薬品の残留許容の基準新設・改正

農産物のイミノクタジン (殺菌剤) など 146 種の農薬に対して残留許容基準を新設・改定*し、畜産物にメニコフロラン (駆虫剤) など動物用医薬品**2 種とジメテナミド (除草剤) など 2 種の殺虫剤***に対する残留許容基準を新設する。

* (新設) 新規登録されたフルインダピル (殺菌剤) など 133 種の基準新設、(改正) 農薬再評価結果を反映しデルタメトリン (殺虫剤) など 43 種農薬の基準を再設定する。

** 使用が許可されているが残留基準がないメニコフロランなど 2 種に対して残留許容基準を新設する。

*** 飼料などから畜産物に移行する可能性のあるジメテナミドなど 2 種農薬の基準を新設する。

残留農薬の許容基準検索の利便性と理解度増進のために、農産物と畜・水産物に分けて管理されていた残留農薬の許容基準を「食品中の残留農薬基準」に統合し整備する。

食薬処は今後も国民の健康保護のために食品安全を強化するとともに、国民の便宜と食品産業の活性化支援のために変化する流通・消費トレンドに合わせて制度を合理的に整備するよう継続的に努力する。

7. 個人オーダーメイド型、複合健康機能性食品のモデル事業が拡大

健康機能性食品政策課 2022-12-20

https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=46896

食品医薬品安全処は、これまで規制及び実証の特例*モデル事業として運営してきた「個人オーダーメイド型の健康機能性食品」と「複合健康機能性食品」事業の運営対象が 12 月 20 日に開催された規制特例審議委員会（産業通商資源部主管）で追加承認され、モデル事業規模がさらに拡大すると明らかにした。

* 新技術を活用して事業を行うための許可や基準などの根拠が関連する法令に準拠していない、又はそのまま適用できない場合は一定条件下で試験を許可し、その過程で収集されたデータに基づいて規制を改善する制度。

<健康機能性食品の規制及び実証特例試験事業の運営状況>

個人オーダーメイド型の健康機能食品 個人の生活習慣・健康状態に対する専門家（薬剤師・栄養士など）の相談に基づき、健康機能性食品（錠剤・カプセル・丸剤・片状・バー・ゼリー 6 つの剤型に限定）を個人に合わせて小分・組合せ包装・販売する。

（'20.4,'20.8）15 社 168 店舗を承認→（追加承認）18 社 1559 店舗⇒計 33 社 1727 店舗
複合健康機能性食品 食品安全管理の認証基準（HACCP）を認証された食品製造・加工業店で錠剤、カプセルなどの形態の健康機能性食品を 1 回分量に小分けし、液状などの形態の一般食品と一体型で包装した製品を製造・販売する。

（'21.9）5 社 93 製品承認→（追加承認）12 社 176 製品⇒計 17 社 269 製品

「個人オーダーメイド型健康機能性食品」と「複合健康機能性食品」事業は規制の特例モデル事業であると同時に、食薬処 100 大課題*に含まれる課題として 2020 年に初めて事業を開始して以来、徐々に活性化され売上げと利用者数が増加**した。

* 食薬処は大韓商工会議所、韓国消費者団体協議会とともに国民の健康・安全を最優先にして産業発展を支援するための「食医薬規制革新 100 大課題」発表（'22.8.11）

** 個人オーダーメイド型：売上高 79 億、利用者数約 78,000 人（'22.9.基準）

複合：売上 120 億、販売量 298 万個（'22.9.基準）

これによりモデル事業への関心と参加を希望する業者が増加し、今回、運営対象が追加で承認*され、承認された業者は今後 2 年間モデル事業を運営することになる。

*「個人オーダーメイド型の健康機能食品」では 18 社（1559 店舗）、「複合健康機能性食品」

では 12 社（176 製品）

モデル事業は従来のように健康機能性食品の効果・品質を保ち、消費者の安全のために食薬処*が提供する指針*を遵守する場合にのみ許可される。

* 指針に安全性・品質の関連諸般を含む⇒（個人オーダーメイド型）小分・組合せ・包装方法、表示・広告、健康相談及び製品推奨方法、事業者遵守事項、異常事例報告など、（複合）製造・販売基準、安全・品質管理基準、事業者の遵守事項、自己品質検査、トレーサビリティ管理、表示・広告、異常な事例報告など

参考に、食薬処はモデル事業が安全に運営されるよう衛生教育、安全点検、コンサルティングなどを支援しており、組織的基盤を作るために現場の意見聴取、周期的に運営実態の点検、法令改正案の整備などを推進している。

今回のモデル事業拡大により消費者需要（Needs）に適合する多様な健康機能食品性製品が発売され、消費者の利便性が向上し選択権が拡大すると同時に、法制化など制度改善もより迅速に推進されると期待する。

食薬処は今回のモデル事業運営過程で消費者の安全を守るために補完すべき部分があるか綿密に検討する一方、今後のモデル事業の運営結果をもとにオーダーメイド型、複合健康機能性食品が成功的に制度化されるよう持続的に努力する。

<添付>

- 1.規制及び実証の特例モデル事業の選定業者
- 2.個人オーダーメイド型、複合健康機能性食品の質問と回答（Q&A）

● シンガポール食品庁（SFA : Singapore Food Agency）<https://www.sfa.gov.sg/>

1. シンガポールの農家との強い関係構築

Growing Relationships with Singapore's farms

27 Dec 2022

<https://www.sfa.gov.sg/food-for-thought/article/detail/growing-relationships-with-singapore-s-farms>

シンガポール食品庁（SFA）は農場や養殖場と密接に連携し、食料安全保障を強化するために問題に対処し、生産性を向上させている。例えば、農業・食品分野での変革を支援するための補助金制度の適用や、陸上農場のための事業者向けガイドの提供などを行ってきた。最近では、事業者が規制要件への理解を深めるのに役立つものとして「海上養殖場のための事業者向けガイド」を 2022 年 11 月に発表した。

* Starting a sea-based farm: An Industry Guide

<https://www.sfa.gov.sg/docs/default-source/food-farming/sfa-sea-farming-guide.pdf>

2. マレーシア産ロメインレタスの輸入規制

IMPORT RESTRICTION OF ROMAINE LETTUCE FROM MALAYSIA

3 January 2023

<https://www.sfa.gov.sg/docs/default-source/default-document-library/circular-on-import-of-romaine-lettuce-from-malaysia-3-jan-2023.pdf>

マレーシア産のロメインレタスから、急性毒性が懸念される濃度の残留農薬が検出されたため、輸入が規制される。(訳注：通知文書に輸入業者と輸出業者の名前が記載されているが、農薬名や濃度等の記載はない。)

3. 新規食品

Novel Food

Friday, January 6, 2023

<https://www.sfa.gov.sg/food-information/novel-food>

シンガポール食品庁 (SFA) が新規食品に関して情報提供する。

SFA は、新規食品とは、安全な使用歴のない食品又は食品原材料と考える。新規食品には、天然に存在する物質と化学的に同一だが、例えば精密発酵といった技術の応用により製造される化合物も含む。新規食品の例として、培養肉及び新規化合物で製造された代替タンパク質が含まれる。

人々が消費する新規食品の生産は発展途上にある業界である。新しい食品産業の成長を促進するためにも、シンガポールで消費される食品の安全性は引き続き最優先事項であり、食品の安全性を確保するために、すべての新規食品は、販売が承認される前に厳格な安全性評価の枠組みの対象である。

シンガポールで新規食品を販売する前には、次の手順に従うこと。1) 先ずレビューに必要な情報について SFA に打診する。2) 安全性評価書を提出する。SFA は、これらの安全性評価書をレビューして、新規食品の安全性の問題の可能性に対処したかどうかを判断する。新規食品の評価には安全性評価書の受理から推定 9~12 か月を要する。SFA は、新規食品の安全性評価の申請に必要とされる情報に関するガイダンス(2022-年 9月更新版)のほか、精密/バイオマス発酵工程と細胞ベースの食品業者向けの自己チェックリストを提供している。

* Requirements for the Safety Assessment of Novel Foods and Novel Food Ingredients

https://www.sfa.gov.sg/docs/default-source/food-import-and-export/Requirements-on-safety-assessment-of-novel-foods_26Sep.pdf

● その他

食品安全関係情報 (食品安全委員会) から

(食品安全情報では取り上げていない、食品安全関係情報に記載されている情報をお知らせします。)

- ベルギー連邦フードチェーン安全庁(AFSCA)、PFAS による環境汚染に関連して、ワロン地方で実施された食品の検査結果を公表
- フランス食品環境労働衛生安全庁(ANSES)、「ケーキデザイン」に使用されるデコレーションパウダーについて注意を喚起
- ドイツ連邦消費者保護・食品安全庁(BVL)、活性物質グリホサート(Glyphosat)を含む植物保護剤の認可延長を公表
- ドイツ連邦食糧農業省(BMEL)、動物用医薬品法の改正が 2023 年 1 月 1 日に施行される旨のプレスリリース(Nr.180/2022)を公表
- オーストリア保健・食品安全局(AGES)、クマリン(Cumarin)の概況報告書を公表
- スペインカタルーニャ州食品安全機関(ACSA)、カタルーニャ住民のフザリウム属マイコトキシンへの食事性ばく露評価を公表
- ドイツ連邦消費者保護・食品安全庁(BVL)、遺伝子工学と種子に関する連邦州による検査結果(2022)を公表
- スペイン食品安全栄養庁(AESAN)、小売商業施設における食品製造・販売に対する特定の衛生要件定めた勅令を公表
- 中国国家市場監督管理総局、食品のサンプリング検査結果を公表(2022 年第 26 号)
- 中国海関総署、輸入食品の不合格リスト(2022 年 11 月分)を公表

ProMED-mail

- エチレングリコール中毒ーウズベキスタン：薬物中毒、疑い、致死

Ethylene glycol poisoning - Uzbekistan: drug toxicity, susp, fatal

2022-12-28

<https://promedmail.org/promed-post/?id=8707491>

[1]Date: Tue 27 Dec 2022 Source: Daryo [edited]

ウズベキスタンの子供の人権任命者 Aliya Yunusova と地域の検察次長、地域保健部門長及びその他関係者が合同で調剤薬 Dok-1 Max を使用したと考えられる子供の死亡について調査を行った。2022 年 9 月から 12 月の間に急性腎不全の 21 人の患者が Samarkand 地域子供医療センターで治療された。3 人が自宅で治療され、18 人が死んだ。15 人が 3 才未満だった。両親は子供たちに風邪症状があり Dok-1 Max を使用した後悪化したと言う。専門家によると Dok-1 Max は 2 才以上に使用できると記されているが、この組成 (パラセタモール 500mg、グアイフェネシン 200mg、塩酸フェニレフリン 10mg) の他の会社の製品は一般的に 12 才以上に使用が制限されている。

[2]Date: Tue 27 Dec 2022 Source: Aki Press [edited]

ウズベキスタン保健省は 9 月以降 Dok-1 Max シロップを使用した後死亡した子供たちは 18 人であると確認した。2022 年 12 月 27 日に発表された保健省の報告に専門家グループによる調査結果が記されている。Dok-1 Max 錠剤及びシロップはインドの Marion Biotech

製で、ウズベキスタンでは 2012 年に登録され販売されている。ウズベキスタンへの輸入は Quramax Medical が行っている。Doc-1 Max シロップ使用后 21 人が急性呼吸疾患で入院し 18 人が死亡した。入院前に自宅でこの薬を 2-7 日間 1 日 3-4 回、2-2.5ml、子供用には多い量を与えられている。全ての子供が医師の処方なしに薬を与えられていた。主成分がパラセタモールであるため、親や薬局の販売者の判断で風邪用レメディとして不正確に使われていた。一次検査で Doc-1 Max シロップにエチレングリコールが存在することが示されている。この薬物は有毒である。7 人の役人が職を解かれ、たくさんの専門家に公的義務を果たさなかったため懲戒処分が行われた。全ての文書は司法機関に送られ犯罪として裁かれるだろうと保健省の報告は言う。Dok-1 Max 錠剤及びシロップはウズベキスタン市場から回収された。医療従事者の責任の問題と欠点については保健省の特別会議で検討されるだろう。

- 大麻中毒—米国：子供、患者増加、食用

Cannabis poisoning - USA: child, increased cases, edibles

2023-01-12

<https://promedmail.org/promed-post/?id=8707758>

Date: Tue 3 Jan 2023 Source: Washington Post [edited]

Pediatrics に発表された全国中毒コントロールのデータの研究によると、6 才以下の子供が意図せず食用大麻を食べる事故の数が 2017 年の 207 件から 2021 年の 3054 件に 1375%増加した。

* Pediatric Edible Cannabis Exposures and Acute Toxicity: 2017–2021

Marit S. Tweet et al., *Pediatrics* e2022057761.

<https://doi.org/10.1542/peds.2022-057761>

- ネコ汎血球減少症—英国：致死、食品リコール、カビ毒

Feline pancytopenia - UK: fatal, food recall, mycotoxins

2023-01-15

<https://promedmail.org/promed-post/?id=8707793>

Date: Thu 12 Jan 2023 Source: VIN [edited]

英国のネコの病気のアウトブレイクの犯人はおそらくカビ毒。

2021 年に少なくとも 365 匹のネコを殺しさらに数百頭を病気にした汎血球減少症アウトブレイクの犯人として研究者は真菌が作る毒素に狙いをつけた。カビ毒はリコールされたペットフードの 3 ブランドに使われていたポテトフレックに同定された。

* *Journal of Internal Veterinary Medicine* に 2023 年 1 月 7 日発表された研究 2 件：トリコテセンカビ毒、T-2 及び HT-2 が欧州基準を超えていた。またジアセトキシシルペノール (diacetoxyscirpenol) も検出されている。研究者が注記すべきこととして、問題のあった 3 ブランドは全て「穀物フリー食」と宣伝されていた。

- An investigation into an outbreak of pancytopenia in cats in the United Kingdom

Barbara Glanemann et al.,

Journal of Veterinary Internal Medicine /Early View

<https://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/jvim.16615>

- Clinical and clinicopathological features and outcomes of cats with suspected dietary induced pancytopenia

Barbara Glanemann et al.,

<https://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/jvim.16613>

オープンアクセス

以上

食品化学物質情報

連絡先：安全情報部第三室